

第1章 人口動態

1 平成22年の概況

人口動態統計の概況を第1.1表に示す。人口動態の項目ごとに平成22年の本県の年間発生数をみると、出生数は46,818人で、前年より734人増加し、出生率は9.3で前年と同程度だった。

死亡数は46,996人で、前年より2,117人増加し、死亡率は9.3で前年を0.3上回った。

自然増減数（出生数から死亡数を減じた数）は-178人で、前年(1,205人)より1,383人減少し、自然増減率は-0.0で前年を0.2下回った。

乳児死亡数は105人で、前年より2人減少し、乳児死亡率は2.2で、前年と同程度であった。

新生児死亡数は55人で、前年より7人増加し、新生児死亡率は1.2で前年と同程度であった。

死産数は1,366胎で、前年より24胎増加し、死産率は28.3で前年と同程度であった。

周産期死亡数は200人で、前年より14人増加し、周産期死亡率は4.3で前年と同程度であった。

婚姻件数は29,247件で、前年より172件減少し、婚姻率は5.8で前年と同程度であった。

離婚件数は10,952件で、前年より169件減少し、離婚率は2.18で前年と同程度であった。

なお、全国との比較では、福岡県の出生率、死産率（人工）、婚姻率及び離婚率は全国よりも上回っており、福岡県の死亡率は全国よりも下回った。

第1.1表 人口動態統計の概況

項 目	福 岡 県						全 国	
	年 間 発 生 数			発 生 比 率		平成22年 平均発生間隔	発 生 比 率	
	平成22年	平成21年	対前年差	平成22年	平成21年	時:分'秒"	平成22年	平成21年
出 生	46,818	46,084	734	9.3	9.2	00:11'14"	8.5	8.5
死 亡	46,996	44,879	2,117	9.3	9.0	00:11'11"	9.5	9.1
自 然 増 減	-178	1,205	-1,383	-0.0	0.2	…	-1.0	-0.6
乳 児 死 亡	105	107	-2	2.2	2.3	83:25'43"	2.3	2.4
新 生 児 死 亡	55	48	7	1.2	1.0	159:16'22"	1.1	1.2
死 産	1,366	1,342	24	28.3	28.3	06:24'46"	24.2	24.6
自 然 死 産	582	503	79	12.1	10.6	15:03'06"	11.2	11.1
人 工 死 産	784	839	-55	16.3	17.7	11:10'24"	13.0	13.5
周 産 期 死 亡	200	186	14	4.3	4.0	43:48'00"	4.2	4.2
妊 娠 満 22 週 以 後 の 死 産	160	153	7	3.4	3.3	54:45'00"	3.4	3.4
早 期 新 生 児 死 亡	40	33	7	0.9	0.7	219:00'00"	0.8	0.8
婚 姻	29,247	29,419	-172	5.8	5.9	00:17'58"	5.5	5.6
離 婚	10,952	11,121	-169	2.18	2.22	00:47'59"	1.99	2.01

注：1) 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対である。

2) 人口は「平成22年人口動態統計上巻 年次・都道府県・性別人口」（厚労省）を使用（全国 126,381,728人、福岡県 5,030,961人）。

2 出 生

(1) 出生の動向

出生数、出生率及び合計特殊出生率の推移を第2.1表及び図2.1に示す。平成22年の本県の出生数は46,818人、出生率は9.3で、前年の数、率ともやや上回った。また、合計特殊出生率は近年、全国と比べると常に同程度ないしは下回って推移していたが、平成22年は全国の1.39を上回り、1.44だった。

第2.1表 出生数・出生率（人口千対）・合計特殊出生率の推移

年 次	福 岡 県			全 国		
	出 生 数	出 生 率	合計特殊出生率	出 生 数	出 生 率	合計特殊出生率
昭和22年	108,237	34.1	・・・	2,678,792	34.3	4.54
" 25年	109,156	30.9	・・・	2,337,507	28.1	3.65
" 30年	76,427	19.8	・・・	1,730,692	19.4	2.37
" 35年	67,318	16.8	1.92	1,606,041	17.2	2.00
" 40年	68,854	17.4	2.00	1,823,697	18.6	2.14
" 45年	69,632	17.4	1.95	1,934,239	18.8	2.13
" 50年	71,059	16.7	1.83	1,901,440	17.1	1.91
" 55年	64,404	14.2	1.74	1,576,889	13.6	1.75
" 60年	58,837	12.4	1.75	1,431,577	11.9	1.76
平成2年	48,164	10.1	1.52	1,221,585	10.0	1.54
" 7年	46,849	9.6	1.42	1,187,064	9.6	1.42
" 12年	47,290	9.5	1.36	1,190,547	9.5	1.36
" 13年	46,985	9.4	1.31	1,170,662	9.3	1.33
" 14年	46,443	9.3	1.29	1,153,855	9.2	1.32
" 15年	45,035	9.0	1.25	1,123,610	8.9	1.29
" 16年	45,143	9.0	1.25	1,110,721	8.8	1.29
" 17年	43,421	8.7	1.26	1,062,530	8.4	1.26
" 18年	45,304	9.0	1.30	1,092,674	8.7	1.32
" 19年	46,393	9.2	1.34	1,089,818	8.6	1.34
" 20年	46,695	9.3	1.37	1,091,156	8.7	1.37
" 21年	46,084	9.2	1.37	1,070,035	8.5	1.37
" 22年	46,818	9.3	1.44	1,071,304	8.5	1.39

注：1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

2) 合計特殊出生率は15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に生むとした時の子ども数を表す。国勢調査年次は日本人人口、他の年次は推計人口を用いた。

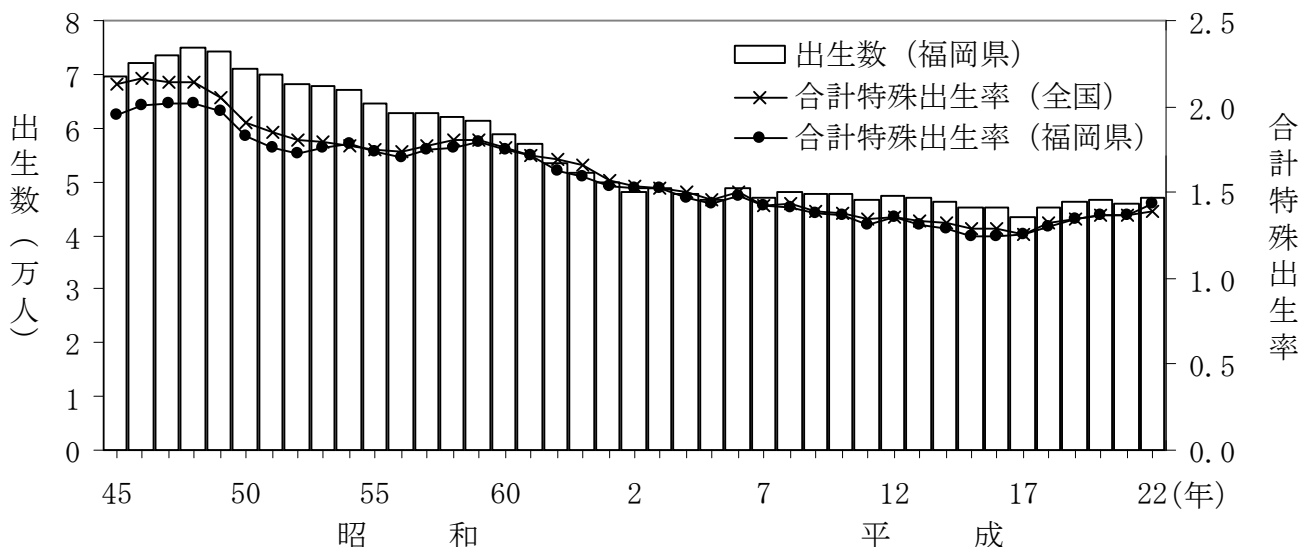


図2.1 出生数・合計特殊出生率の推移

平成 22 年の本県の市区町村別出生率を第 2.2 表及び図 2.2 に示す。最も出生率が高かったのは粕屋町の 17.8 だった（平成 11 年以降連続 1 位）。次いで新宮町の 14.7、志免町の 14.3、那珂川町の 12.9 の順だった。福岡市及びその近郊に出生率の高い地域が集積している。

第 2.2 表 市区町村別にみた出生率（人口千対）（平成 22 年・福岡県）

市区町村名	出生率	市区町村名	出生率	市区町村名	出生率	市区町村名	出生率
粕屋町	17.8	南区	10.0	福津市	8.4	岡垣町	7.5
新宮町	14.7	久留米市	10.0	宇美町	8.4	大任町	7.5
志免町	14.3	早良区	9.8	豊前市	8.3	築上町	7.3
那珂川町	12.9	古賀市	9.8	川崎市	8.2	久山川町	7.3
篠栗町	12.2	中央区	9.8	筑前市	8.2	桂川町	7.2
大野城市	11.3	筑後市	9.7	筑宗市	8.2	朝倉市	7.2
須恵町	11.3	糸田町	9.6	遠賀町	8.2	中若松区	7.1
苅田町	11.2	春日市	9.5	上毛町	8.2	若門区	7.0
東区	11.0	城南区	9.4	福智町	8.0	大川市	7.0
広川町	10.9	直方市	9.3	糸島市	7.9	嘉麻市	6.6
大木町	10.8	八幡西区	9.3	芦屋町	7.9	八幡東区	6.5
大吉町	10.8	飯塚市	9.2	柳川市	7.8	赤村	6.5
太宰府市	10.6	宮若市	9.2	小郡市	7.8	鞍手町	6.3
筑紫野市	10.6	田川市	9.1	戸畑区	7.8	みやま市	6.1
西多区	10.4	小倉北区	9.0	大牟田市	7.6	みやま市	6.1
博多区	10.3	水巻町	8.9	八幡市	7.6	小東村	5.9
小倉南区	10.1	行橋市	8.9	八幡市	7.5	みやま市	5.8
大刀洗町	10.0	香春町	8.5	八幡市	7.5	みやま市	4.9

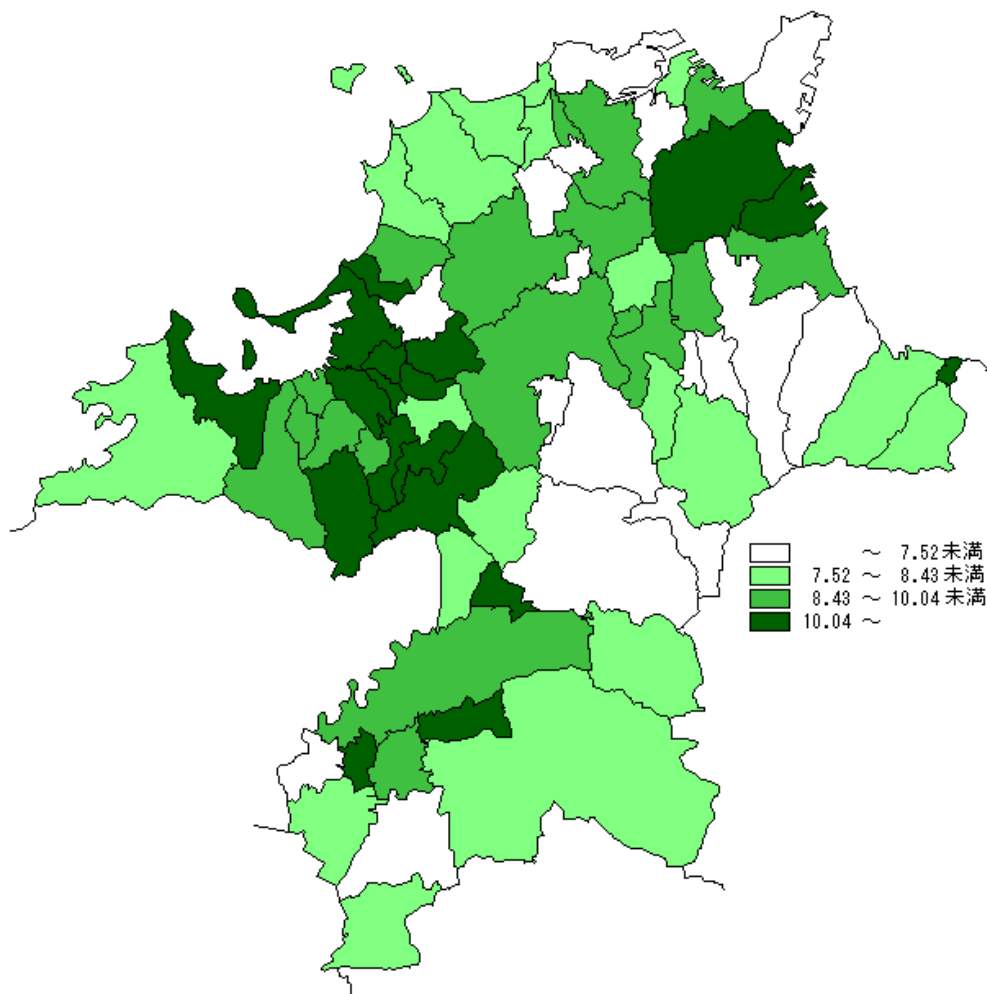


図 2.2 市区町村別にみた出生率（人口千対）（平成 22 年・福岡県）

(2) 人口の自然増減の状況

人口の自然増減の推移を第2.3表及び図2.3に示す。自然増減数及び自然増減率は出生数及び率の減少、死亡数及び率の増加とともに近年減少傾向を示している。平成22年をみると出生数も死亡数も前年より増加したが、死亡数の増加がより大きいため、自然増減数は前年に比べ減少し、わずかながらマイナスに転じた。なお、全国との比較では、平成16年以降は全国よりも上回って推移している。

第2.3表 自然増減数・自然増減率（人口千対）の推移

年次	自然増減数		自然増減率		年次	自然増減数		自然増減率	
	福岡県	福岡県	福岡県	全国		福岡県	福岡県	全国	
昭和22年	60,155	18.9	19.7	19.7	〃 12年	8,785	1.8	1.8	1.8
〃 25年	72,282	20.5	17.2	17.2	〃 13年	8,345	1.7	1.6	1.6
〃 30年	47,349	12.3	11.6	11.6	〃 14年	7,029	1.4	1.4	1.4
〃 35年	38,548	9.6	9.6	9.6	〃 15年	4,265	0.8	0.9	0.9
〃 40年	40,730	10.3	11.4	11.4	〃 16年	3,999	0.8	0.7	0.7
〃 45年	41,576	10.4	11.8	11.8	〃 17年	746	0.1	-0.2	-0.2
〃 50年	43,483	10.1	10.8	10.8	〃 18年	2,034	0.4	0.1	0.1
〃 55年	34,887	7.6	7.3	7.3	〃 19年	2,474	0.5	-0.1	-0.1
〃 60年	27,949	5.9	5.6	5.6	〃 20年	1,561	0.3	-0.4	-0.4
平成2年	14,569	3.0	3.3	3.3	〃 21年	1,205	0.2	-0.6	-0.6
〃 7年	9,691	2.0	2.1	2.1	〃 22年	-178	-0.0	-1.0	-1.0

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

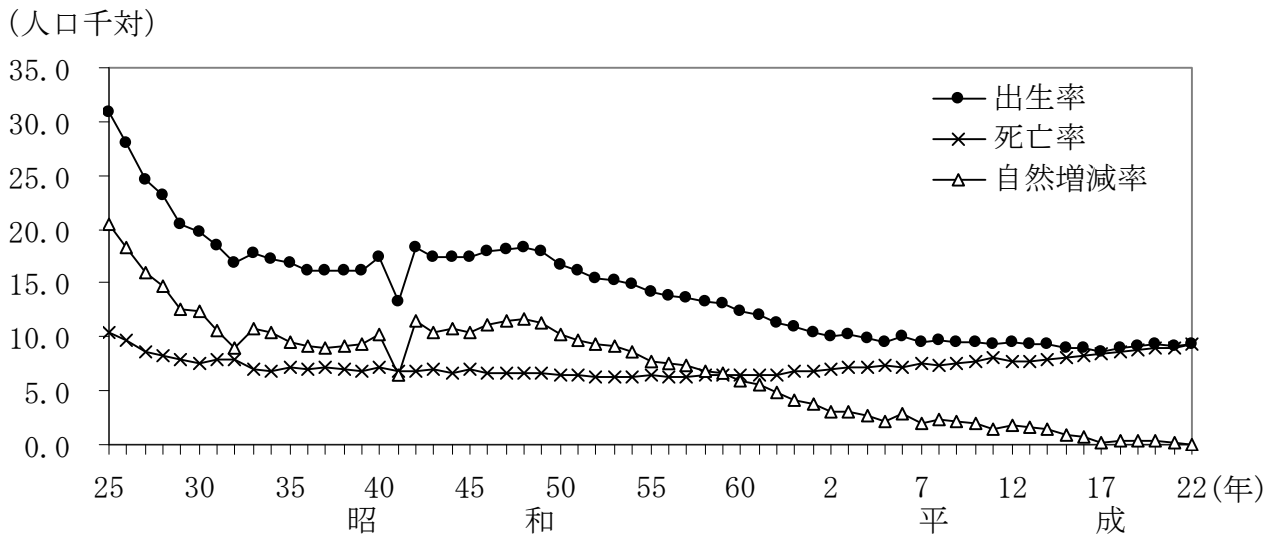


図2.3 出生率・死亡率・自然増減率の推移（福岡県）

(3) 出生順位別にみた出生数の状況

出生順位別にみた出生数・百分率の推移を第2.4表及び図2.4に示す。平成22年の本県の出生数は46,818人だった。出生順位の構成割合をみると、最も多かったのは第1子の21,343人(45.6%)だった。次いで第2子の16,967人(36.2%)、第3子の6,593人(14.1%)、第4子以上の1,915人(4.1%)の順だった。

第2.4表 出生順位別にみた出生数・百分率の推移(福岡県)

年次	総数	第1子		第2子		第3子		第4子以上		不詳
	出生数	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数
昭和35年	67,318	29,595	44.0	22,073	32.8	9,549	14.2	6,101	9.1	0
昭和40年	68,854	31,864	46.3	26,079	37.9	8,187	11.9	2,722	4.0	2
昭和45年	69,632	31,347	45.0	27,144	39.0	8,980	12.9	2,161	3.1	0
昭和50年	71,059	32,565	45.8	28,344	39.9	8,401	11.8	1,749	2.5	0
昭和55年	64,404	27,032	42.0	25,664	39.8	9,901	15.4	1,807	2.8	0
昭和60年	58,837	23,855	40.5	22,899	38.9	10,029	17.0	2,054	3.5	0
平成2年	48,164	20,286	42.1	17,665	36.7	8,338	17.3	1,875	3.9	0
平成7年	46,849	21,688	46.3	16,705	35.7	6,713	14.3	1,743	3.7	0
平成12年	47,290	22,851	48.3	16,982	35.9	6,042	12.8	1,415	3.0	0
平成13年	46,985	22,592	48.1	16,919	36.0	6,033	12.8	1,441	3.1	0
平成14年	46,443	22,657	48.8	16,653	35.9	5,687	12.2	1,446	3.1	0
平成15年	45,035	21,618	48.0	16,521	36.7	5,466	12.1	1,430	3.2	0
平成16年	45,143	21,372	47.3	16,787	37.2	5,524	12.2	1,460	3.2	0
平成17年	43,421	20,635	47.5	16,032	36.9	5,328	12.3	1,426	3.3	0
平成18年	45,304	21,301	47.0	16,504	36.4	5,912	13.0	1,587	3.5	0
平成19年	46,393	21,695	46.8	16,848	36.3	6,303	13.6	1,547	3.3	0
平成20年	46,695	21,533	46.1	16,931	36.3	6,536	14.0	1,695	3.6	0
平成21年	46,084	21,546	46.8	16,456	35.7	6,392	13.9	1,690	3.7	0
平成22年	46,818	21,343	45.6	16,967	36.2	6,593	14.1	1,915	4.1	0

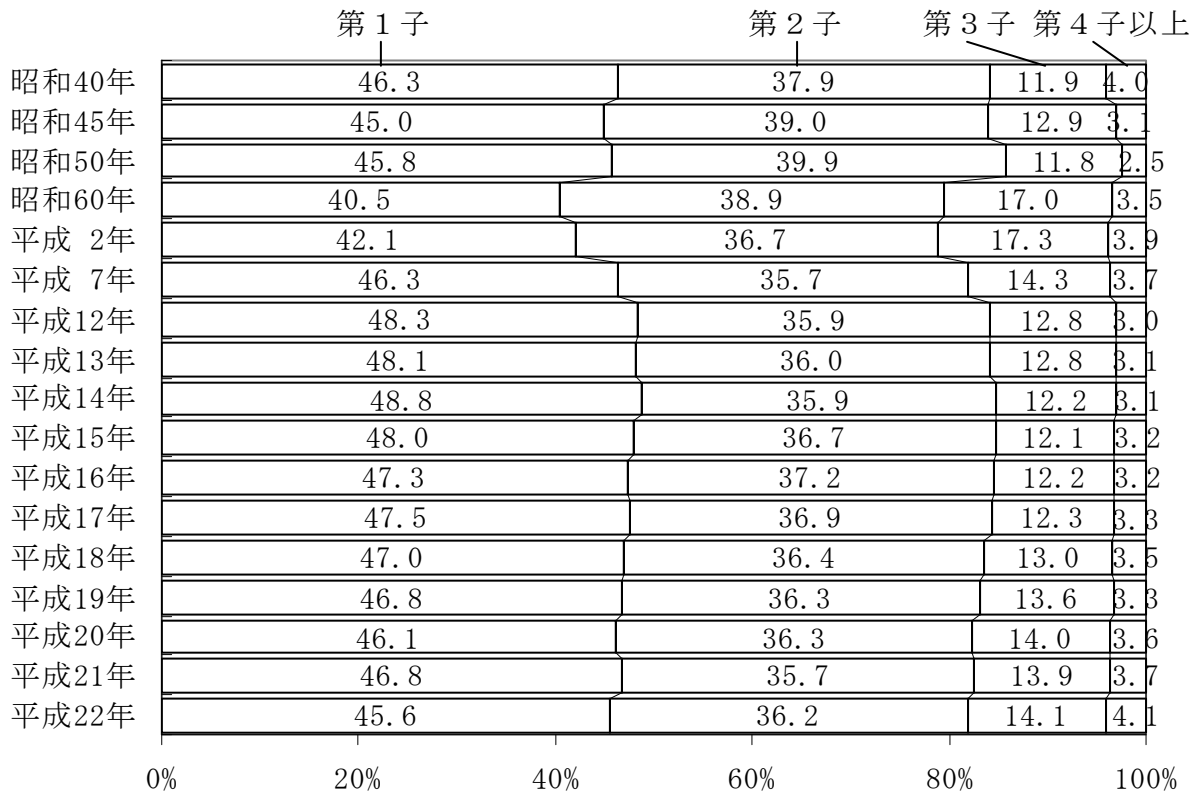


図2.4 出生順位別にみた出生割合の推移(福岡県)

(4) 母の年齢階級別にみた出生状況

母の年齢階級別にみた出生数・百分率の推移を第2.5表及び図2.5に示す。平成22年の本県の状況をみると、最も多かったのは30～34歳の16,489人(35.2%)だった。次いで25～29歳の13,919人(29.7%)、35～39歳の8,877人(19.0%)、20～24歳の5,340人(11.4%)、40歳以上の1,445人(3.1%)、19歳以下の748人(1.6%)の順だった。近年35～39歳及び40歳以上の割合が増加し、20～24歳の減少が続いている。

第2.5表 母の年齢階級別にみた出生数・百分率の推移（福岡県）

年次	総数		19歳以下		20～24歳		25～29歳		30～34歳		35～39歳		40歳以上		不詳
	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	
昭和35年	67,318		1,163	1.7	19,261	28.6	31,002	46.1	12,190	18.1	3,136	4.7	566	0.8	0
昭和40年	68,854		753	1.1	17,893	26.0	32,658	47.4	14,284	20.7	2,849	4.1	417	0.6	0
昭和45年	69,632		764	1.1	17,720	25.4	34,021	48.9	13,500	19.4	3,222	4.6	399	0.6	6
昭和50年	71,059		689	1.0	17,777	25.0	37,900	53.3	11,866	16.7	2,470	3.5	357	0.5	0
昭和55年	64,404		764	1.2	11,668	18.1	32,790	50.9	16,471	25.6	2,438	3.8	273	0.4	0
昭和60年	58,837		885	1.5	9,713	16.5	27,383	46.5	16,282	27.7	4,189	7.1	384	0.7	1
平成2年	48,164		783	1.6	7,445	15.5	20,469	42.5	14,719	30.6	4,150	8.6	598	1.2	0
平成7年	46,849		839	1.8	7,956	17.0	18,443	39.4	14,566	31.1	4,431	9.5	614	1.3	0
平成12年	47,290		972	2.1	7,052	14.9	18,437	39.0	15,043	31.8	5,148	10.9	637	1.3	1
平成13年	46,985		1,002	2.1	6,812	14.5	17,909	38.1	15,468	32.9	5,116	10.9	677	1.4	1
平成14年	46,443		1,021	2.2	6,772	14.6	17,078	36.8	15,700	33.8	5,141	11.1	730	1.6	1
平成15年	45,035		972	2.2	6,270	13.9	16,047	35.6	15,631	34.7	5,429	12.1	685	1.5	1
平成16年	45,143		927	2.1	5,993	13.3	15,267	33.8	16,338	36.2	5,856	13.0	762	1.7	0
平成17年	43,421		803	1.8	5,775	13.3	14,239	32.8	15,899	36.6	5,890	13.6	815	1.9	0
平成18年	45,304		787	1.7	6,001	13.2	14,316	31.6	16,543	36.5	6,832	15.1	825	1.8	0
平成19年	46,393		766	1.7	5,970	12.9	14,368	31.0	16,847	36.3	7,442	16.0	1,000	2.2	0
平成20年	46,695		816	1.7	5,895	12.6	14,051	30.1	16,906	36.2	7,908	16.9	1,119	2.4	0
平成21年	46,084		820	1.8	5,726	12.4	13,677	29.7	16,290	35.3	8,291	18.0	1,280	2.8	0
平成22年	46,818		748	1.6	5,340	11.4	13,919	29.7	16,489	35.2	8,877	19.0	1,445	3.1	0

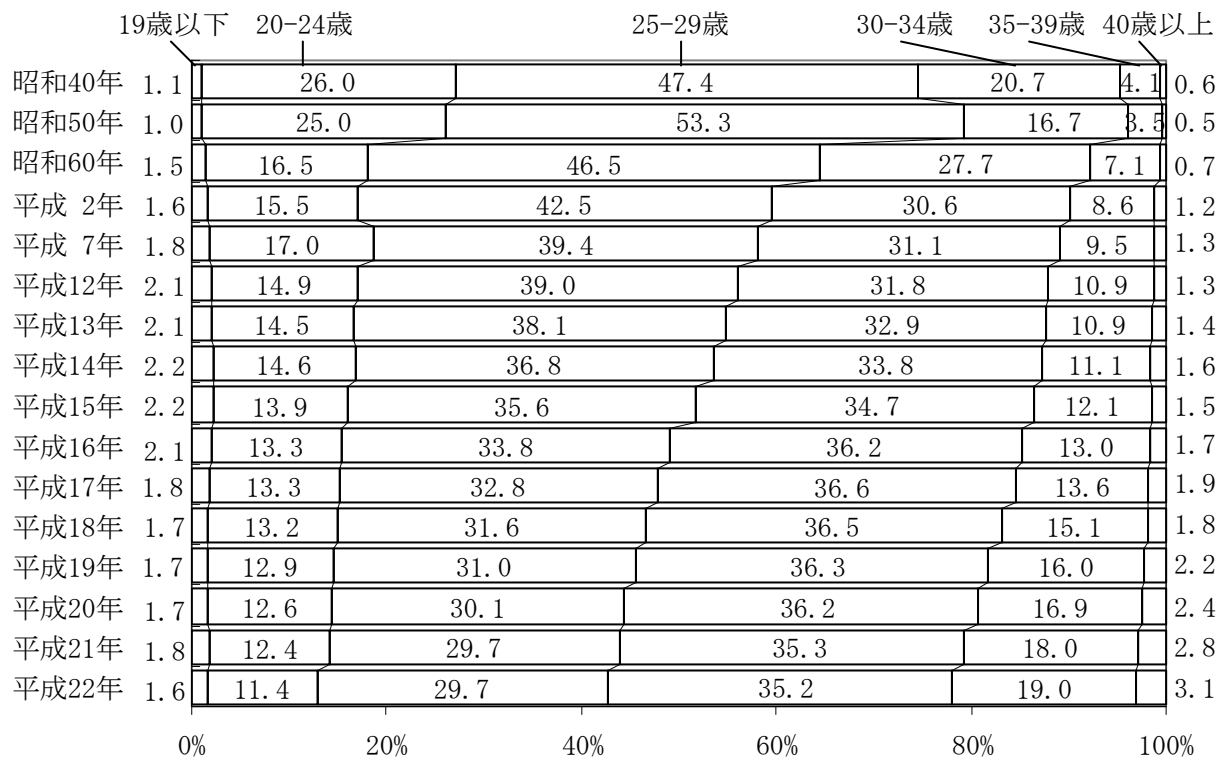


図2.5 母の年齢階級別にみた出生割合の推移（福岡県）

(5) 出生の場所

出生場所別にみた出生数・百分率の推移を第2.6表及び図2.6に示す。平成22年の本県の状況をみると、最も多かったのは診療所の31,751人(67.8%)だった。次いで病院の14,711人(31.4%)、助産所の251人(0.5%)、自宅の89人(0.2%)の順だった。18年以降病院での出生割合が増加している一方で、診療所での出生割合は減少している。

第2.6表 出生場所別にみた出生数・百分率の推移(福岡県)

年次	総数		病院		診療所		助産所		自宅		その他	
	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率
昭和35年	67,318		13,128	19.5	11,573	17.2	5,333	7.9	30,789	45.7	6,495	9.6
昭和40年	68,854		16,672	24.2	31,028	45.1	9,553	13.9	9,543	13.9	2,058	3.0
昭和45年	69,632		18,838	27.1	39,966	57.4	8,489	12.2	1,905	2.7	434	0.6
昭和46年	71,960		20,188	28.1	41,945	58.3	7,986	11.1	1,471	2.0	370	0.5
昭和47年	73,402		21,755	29.6	42,505	57.9	7,785	10.6	1,082	1.5	275	0.4
昭和48年	75,097		22,100	29.4	44,762	59.6	7,202	9.6	795	1.1	238	0.3
昭和49年	74,330		22,428	30.2	44,762	60.2	6,330	8.5	628	0.8	182	0.2
昭和50年	71,059		22,165	31.2	42,689	60.1	5,516	7.8	511	0.7	178	0.3
昭和55年	64,404		22,134	34.4	39,233	60.9	2,803	4.4	147	0.2	87	0.1
昭和60年	58,837		24,446	41.5	32,863	55.9	1,398	2.4	100	0.2	30	0.1
平成2年	48,164		17,976	37.3	29,633	61.5	509	1.1	38	0.1	8	0.0
平成7年	46,849		16,612	35.5	29,697	63.4	477	1.0	52	0.1	11	0.0
平成12年	47,290		15,989	33.8	30,903	65.3	335	0.7	53	0.1	10	0.0
平成13年	46,985		15,351	32.7	31,258	66.5	327	0.7	41	0.1	8	0.0
平成14年	46,443		14,727	31.7	31,362	67.5	281	0.6	62	0.1	11	0.0
平成15年	45,035		13,263	29.5	31,441	69.8	250	0.6	66	0.1	15	0.0
平成16年	45,143		13,328	29.5	31,455	69.7	283	0.6	66	0.1	11	0.0
平成17年	43,421		12,698	29.2	30,373	70.0	263	0.6	68	0.2	19	0.0
平成18年	45,304		13,087	28.9	31,846	70.3	302	0.7	55	0.1	14	0.0
平成19年	46,393		14,083	30.4	31,980	68.9	241	0.5	78	0.2	11	0.0
平成20年	46,695		14,512	31.1	31,850	68.2	249	0.5	71	0.2	13	0.0
平成21年	46,084		14,401	31.2	31,366	68.1	230	0.5	79	0.2	8	0.0
平成22年	46,818		14,711	31.4	31,751	67.8	251	0.5	89	0.2	16	0.0

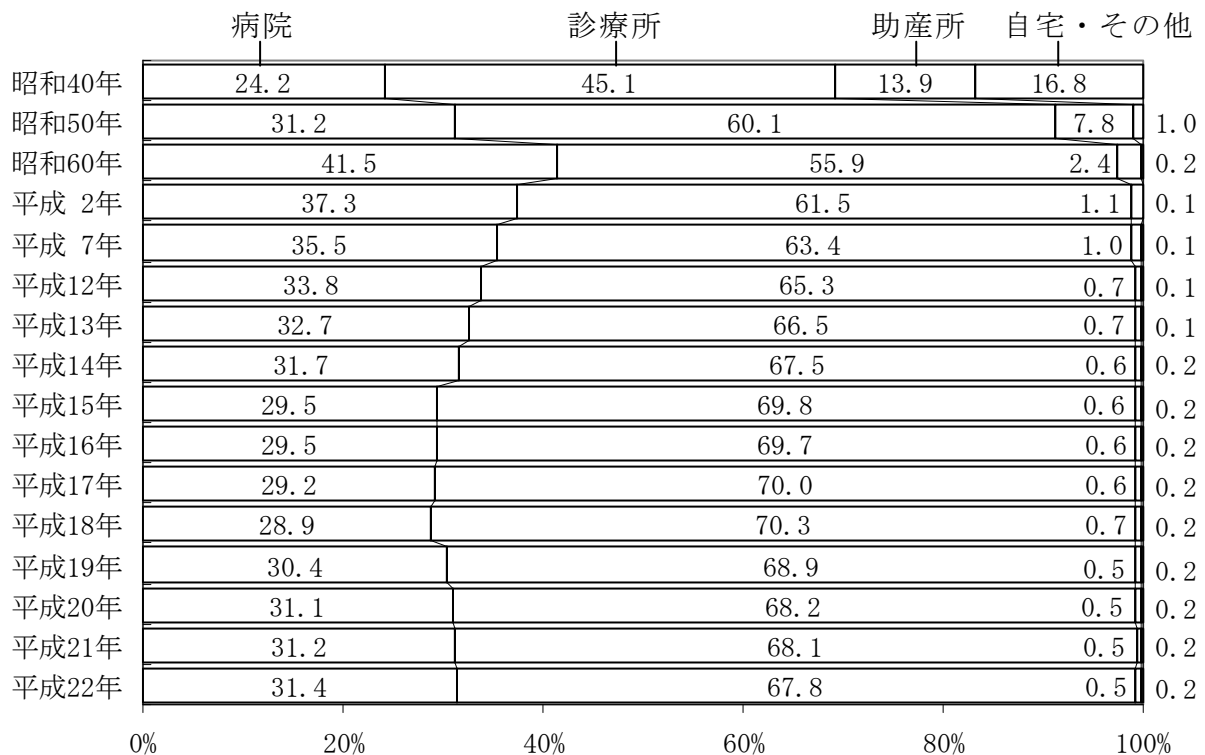


図2.6 出生場所別にみた出生割合の推移(福岡県)

(6) 低体重児出生数

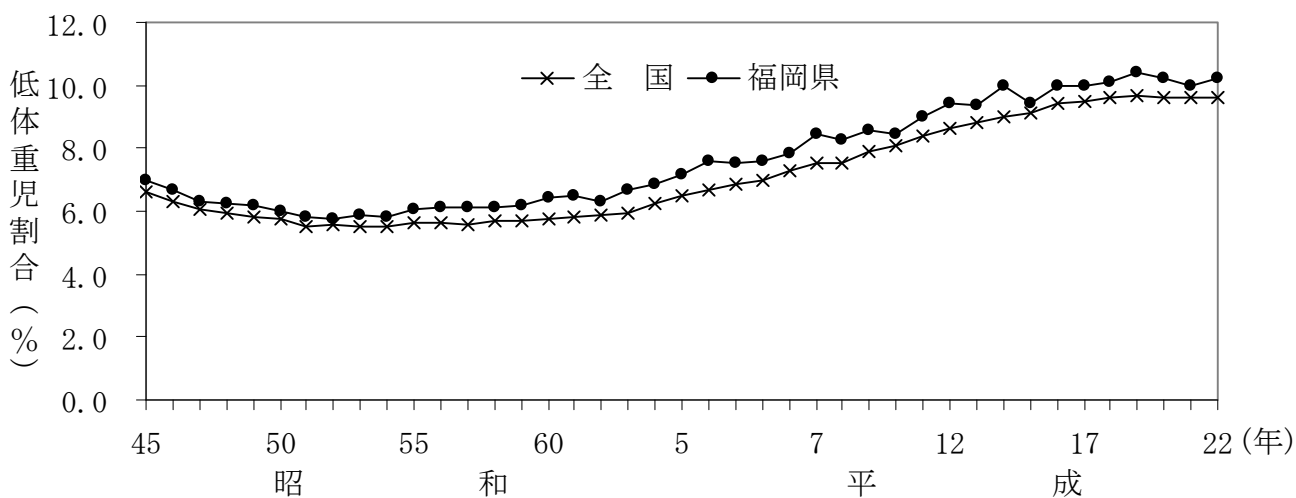
出生数に対する低体重児の構成割合の推移を第2.7表及び図2.7に示す。低体重児の構成割合は昭和50年代を底として漸増していたが、平成19年を除けば、平成16年から平成22年までほぼ横ばいである。平成22年の本県の低体重児出生数は4,776人、全出生数に対する低体重児の構成割合は10.2%だった。

全国と比べると本県の低体重児出生割合は常に上回って推移している。

第2.7表 低体重児出生数・割合の推移

年次	低体重児出生数 (福岡県)	低体重児出生割合(%)	
		福岡県	全 国
昭和35年	5,892	8.8	—
〃 40年	5,628	8.2	—
〃 45年	4,857	7.0	6.6
〃 50年	4,249	6.0	5.8
〃 55年	3,894	6.1	5.6
〃 60年	3,783	6.4	5.7
平成 2年	3,465	7.2	6.5
〃 7年	3,952	8.4	7.5
〃 12年	4,453	9.4	8.6
〃 13年	4,390	9.3	8.8
〃 14年	4,646	10.0	9.0
〃 15年	4,234	9.4	9.1
〃 16年	4,515	10.0	9.4
〃 17年	4,354	10.0	9.5
〃 18年	4,567	10.1	9.6
〃 19年	4,838	10.4	9.7
〃 20年	4,753	10.2	9.6
〃 21年	4,615	10.0	9.6
〃 22年	4,776	10.2	9.6

注：1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。
 2) 平成7年からの低体重児は2,500g未満の出生数である。それ以前は2,500g以下の出生数である。



注：平成6年までは2500g以下の低体重児割合、平成7年からは2500g未満の低体重児割合である。

図2.7 出生数に対する低体重児の構成割合の推移

平成 22 年の本県の保健所管内別低体重児割合を図 2.8 に示す。最も低体重児割合が低かったのは糸島の 7.71 % だった。次いで北筑後の 8.75%、福岡市早良区の 8.96%、福岡市城南区の 9.44%、福岡市南区の 9.56% の順だった。

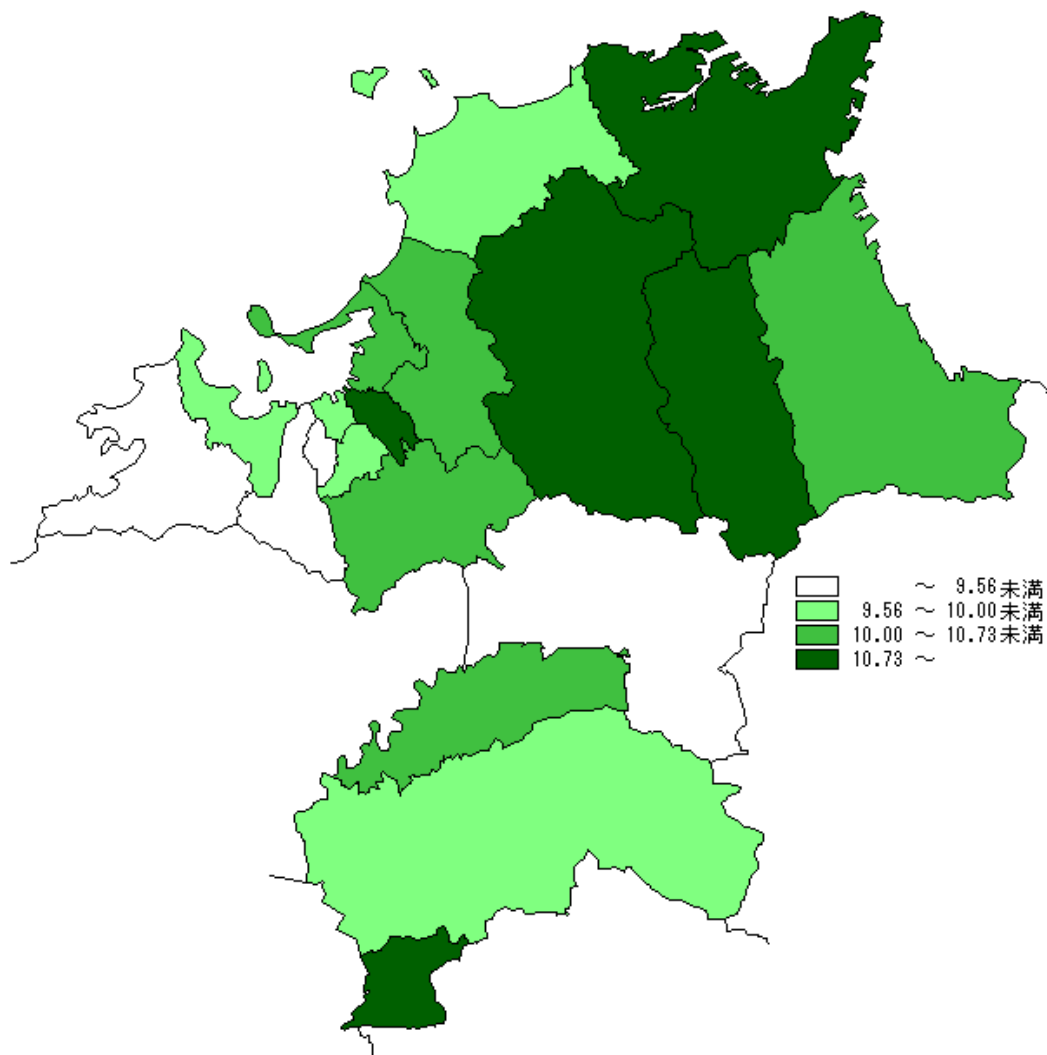


図 2.8 保健所管内別に見た出生数に対する低体重児の構成割合（平成 22 年・福岡県）

3 死 亡

(1) 死亡の動向

死亡数及び死亡率（人口千対）の推移を第3.1表に示す。平成22年の本県の死亡数は46,996人、死亡率は9.3だった。本県の死亡率の年次推移は全国の傾向とほぼ同様に推移し、近年高齢化の影響により、緩やかな上昇を示している。死亡率は高齢者が多いほど高くなる傾向にあるので、年齢構成を補正した年齢調整死亡率でみると、緩やかな減少傾向にある。

第3.1表 死亡数・死亡率（人口千対）の推移

年次	福 岡 県			全 国		
	死亡数	死亡率	年齢調整死亡率	死亡数	死亡率	年齢調整死亡率
昭和25年	36,874	10.4		904,876	10.9	16.3
" 30年	29,078	7.5		693,523	7.8	12.7
" 35年	28,770	7.2		706,599	7.6	12.3
" 40年	28,124	7.1		700,438	7.1	11.2
" 45年	28,056	7.0		712,962	6.9	10.1
" 50年	27,576	6.5		702,275	6.3	8.4
" 55年	29,517	6.5		722,801	6.2	7.3
" 60年	30,888	6.5		752,283	6.3	6.3
平成 2年	33,595	7.0	5.7	820,305	6.7	5.6
" 7年	37,158	7.6	5.3	922,139	7.4	5.3
" 12年	38,505	7.7	4.6	961,653	7.7	4.6
" 13年	38,640	7.7	4.5	970,331	7.7	4.4
" 14年	39,414	7.9	4.4	982,379	7.8	4.3
" 15年	40,770	8.1	4.4	1,014,951	8.0	4.3
" 16年	41,144	8.2	4.3	1,028,602	8.2	4.2
" 17年	42,675	8.5	4.3	1,083,796	8.6	4.3
" 18年	43,270	8.6	4.2	1,084,450	8.6	4.1
" 19年	43,919	8.8	4.1	1,108,334	8.8	4.1
" 20年	45,134	9.0	4.1	1,142,407	9.1	4.0
" 21年	44,879	9.0	3.9	1,141,865	9.1	3.9
" 22年	46,996	9.3	3.9	1,197,012	9.5	3.9

注：1) 年齢調整死亡率は福岡県保健環境研究所の計算による。計算に用いた年齢階級別人口は年齢階級別福岡県推計日本人人口（県調査統計課）を人口動態統計で用いる都道府県別日本人人口で補正した。

2) 空欄は福岡県年齢階級別日本人人口が入手できないため計算から除外した。

3) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成 22 年の本県の市区町村別にみた死亡率を第 3.2 表及び図 3.1 に示す。本県で最も死亡率が低かったのは那珂川町及び春日市の 6.2 だった。以下、大野城市及び福岡市中央区の 6.4、粕屋町の 6.5 の順だった。福岡市及びその近郊に死亡率の低い地域が集積している。

第 3.2 表 市区町村別にみた死亡率（人口千対）（平成 22 年・福岡県）

市区町村名	死亡率	市区町村名	死亡率	市区町村名	死亡率	市区町村名	死亡率
那珂川町	6.2	須恵町	8.2	大芦町	11.1	大牟田市	13.6
春日市	6.2	小郡市	8.3	木屋畑区	11.1	川崎市	13.8
大野城市	6.4	宇美町	8.4	戸畑区	11.1	豊前市	14.1
中央区	6.4	遠賀町	8.5	水巻町	11.3	嘉麻市	14.2
粕屋町	6.5	荏田町	8.5	飯塚市	11.4	みやこ町	14.2
早良区	6.8	小倉南区	8.5	若松区	11.4	みやま市	14.3
新宮町	7.0	糸島市	8.9	直方市	11.7	福岡市	14.6
博多区	7.0	久山町	9.1	うきは市	11.8	川崎町	14.7
筑紫野市	7.1	福津市	9.2	柳川市	12.0	築上町	15.0
城南区	7.2	八幡西区	9.6	大川市	12.4	宮若市	15.0
東区	7.3	筑後市	9.6	田川市	12.8	上毛町	15.2
宰府市	7.4	久留米市	9.7	中八間市	13.1	糸田町	15.5
篠栗区	7.4	筑前町	10.0	八幡女区	13.3	香任町	16.0
西南区	7.5	大刀洗町	10.4	八幡東区	13.3	大任町	16.9
古賀市	7.6	大岡垣町	10.5	門司区	13.3	小添町	18.0
志免町	7.6	行橋市	10.7	鞍手町	13.4	添田村	18.3
像市	7.6	広川町	10.8	吉富町	13.5	東峰村	20.2
	7.7	小倉北区	10.8	朝倉市	13.6	赤松村	21.9

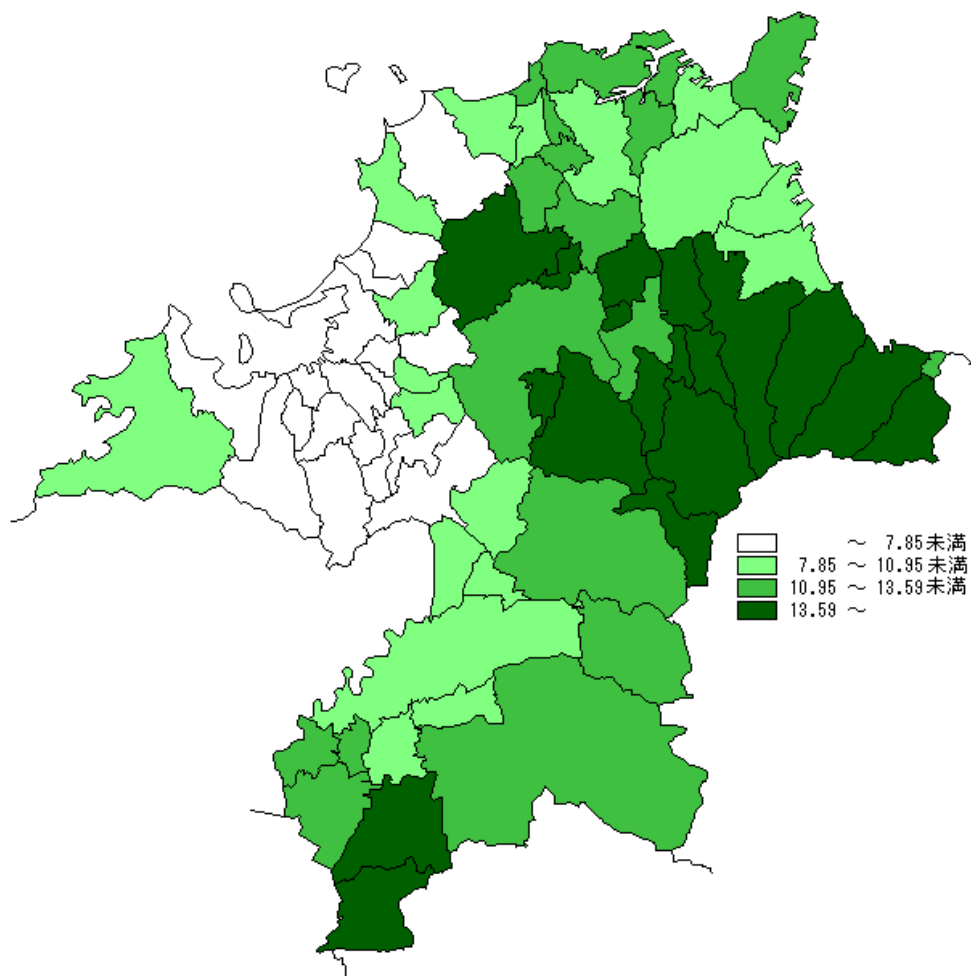


図 3.1 市区町村別にみた死亡率（人口千対）（平成 22 年・福岡県）

(2) 主要死因

昭和45年から平成22年までの本県の主要死因別にみた死亡率を図3.2に示す。また、平成7年からの年齢調整死亡率を図3.3に示す。死亡率は近年人口の高齢化の影響で悪性新生物、心疾患、肺炎、老衰、腎不全、大動脈瘤及び解離、慢性閉塞性肺疾患等の増加傾向がみられる。平成22年の悪性新生物、心疾患、肺炎、不慮の事故、老衰、腎不全、大動脈瘤及び解離、慢性閉塞性肺疾患など死亡率上位の死因は前年に比べ増加した。一方、脳血管疾患、自殺は減少した。年齢構成を補正した年齢調整死亡率では、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、自殺、不慮の事故、肝疾患などは減少傾向を示している。

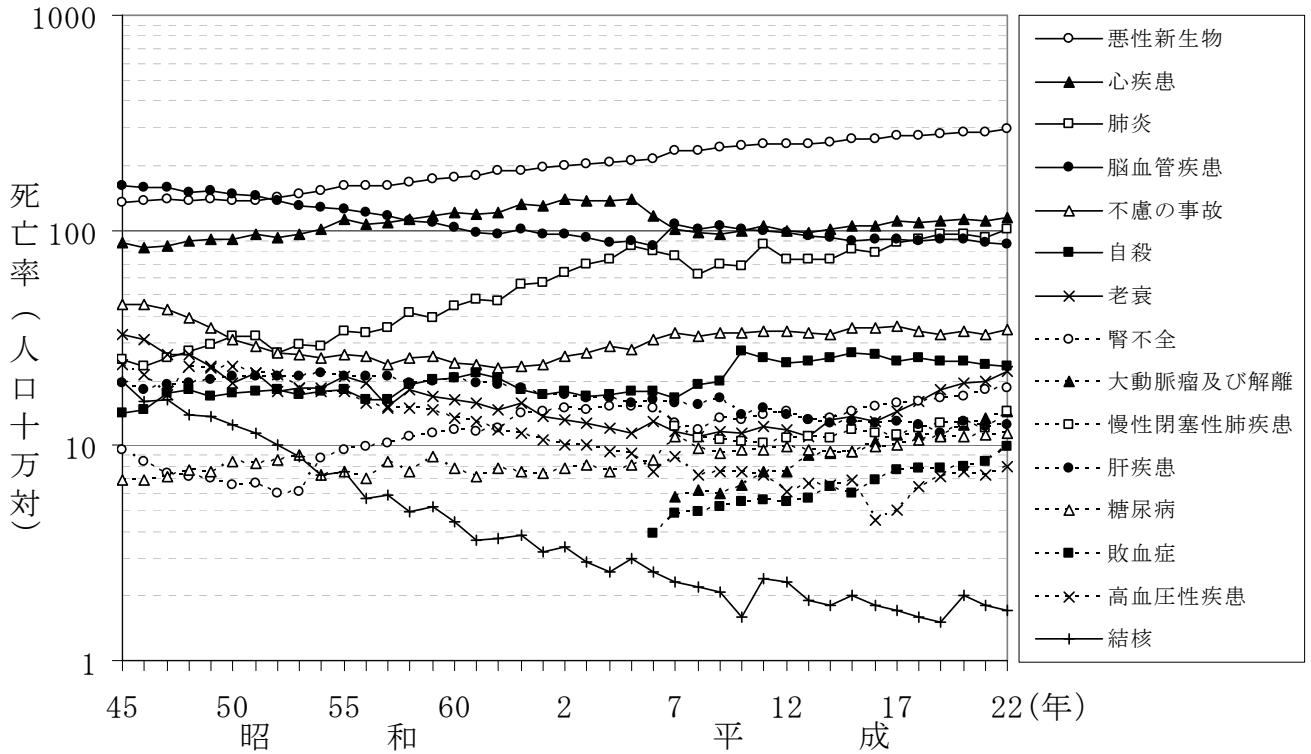


図 3.2 主要死因別にみた死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

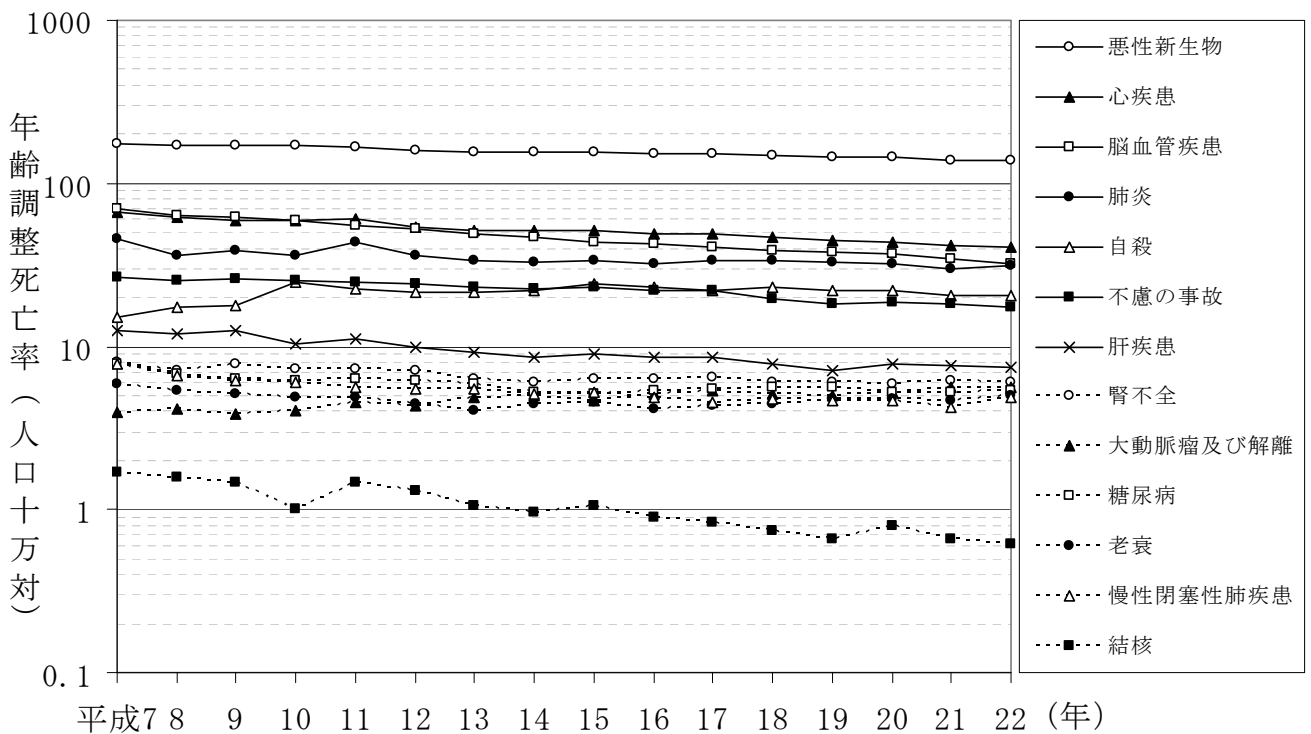


図 3.3 主要死因別にみた年齢調整死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

死因別順位別にみた死亡数及び死亡率を第3.3表に示す。平成22年の本県の死因別順位をみると、1位は悪性新生物の14,769人（人口10万対293.6）、2位は心疾患の5,791人（115.1）、3位は肺炎の5,076人（100.9）、4位は脳血管疾患の4,316人（85.8）であり、9位までは昨年と同様だった。

第3.3表 死因・順位別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

上段：死亡数（人）
下段：死亡率（人口10万対）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
昭和55年	悪性新生物 7,287 159.6	脳血管疾患 5,712 125.1	心疾患 5,067 111.0	肺炎・気管支炎 1,540 33.7	不慮の事故・有害作用 1,196 26.2	慢性肝疾患・肝硬変 949 20.8	老衰 946 20.7	自殺 816 17.9	高血圧性疾患 801 17.5	腎炎, 脳ローゼ症候群・脳ローゼ 429 9.4
昭和60年	悪性新生物 8,350 175.7	心疾患 5,710 120.1	脳血管疾患 4,894 103.0	肺炎・気管支炎 2,121 44.6	不慮の事故・有害作用 1,144 24.1	慢性肝疾患・肝硬変 980 20.6	自殺 968 20.4	老衰 768 16.2	高血圧性疾患 644 13.5	腎炎, 脳ローゼ症候群・脳ローゼ 560 11.8
平成2年	悪性新生物 9,474 198.0	心疾患 6,631 138.6	脳血管疾患 4,567 95.5	肺炎・気管支炎 3,057 63.9	不慮の事故・有害作用 1,239 25.9	自殺 853 17.8	慢性肝疾患・肝硬変 816 17.1	腎炎, 脳ローゼ症候群・脳ローゼ 711 14.9	老衰 630 13.2	高血圧性疾患 483 10.1
平成7年	悪性新生物 11,414 233.1	脳血管疾患 5,270 107.6	心疾患 4,954 101.2	肺炎 3,725 76.1	不慮の事故 1,630 33.3	自殺 814 16.6	肝疾患 772 15.8	腎不全 626 12.8	慢性閉塞性肺疾患 598 12.2	老衰 567 11.6
平成12年	悪性新生物 12,503 250.8	心疾患 4,941 99.1	脳血管疾患 4,863 97.6	肺炎 3,666 73.5	不慮の事故 1,687 33.8	自殺 1,213 24.3	腎不全 717 14.4	肝疾患 688 13.8	老衰 586 11.8	慢性閉塞性肺疾患 536 10.8
平成17年	悪性新生物 13,700 273.4	心疾患 5,545 110.7	脳血管疾患 4,544 90.7	肺炎 4,408 88.0	不慮の事故 1,784 35.6	自殺 1,235 24.6	腎不全 789 15.7	老衰 726 14.5	肝疾患 650 13.0	慢性閉塞性肺疾患 561 11.2
平成18年	悪性新生物 13,903 277.2	心疾患 5,486 109.4	肺炎 4,557 90.9	脳血管疾患 4,503 89.8	不慮の事故 1,699 33.9	自殺 1,291 25.7	腎不全 800 16.0	老衰 796 15.9	肝疾患 621 12.4	慢性閉塞性肺疾患 608 12.1
平成19年	悪性新生物 14,130 281.7	心疾患 5,524 110.1	肺炎 4,799 95.7	脳血管疾患 4,551 90.7	不慮の事故 1,644 32.8	自殺 1,241 24.7	老衰 919 18.3	腎不全 836 16.7	慢性閉塞性肺疾患 636 12.7	肝疾患 571 11.4
平成20年	悪性新生物 14,328 285.8	心疾患 5,610 111.9	肺炎 4,826 96.3	脳血管疾患 4,527 90.3	不慮の事故 1,701 33.9	自殺 1,227 24.5	老衰 971 19.4	腎不全 852 17.0	肝疾患 649 12.9	慢性閉塞性肺疾患 633 12.6
平成21年	悪性新生物 14,312 285.4	心疾患 5,584 111.4	肺炎 4,656 92.9	脳血管疾患 4,404 87.8	不慮の事故 1,636 32.6	自殺 1,185 23.6	老衰 990 19.7	腎不全 915 18.2	大動脈瘤及び解離 670 13.4	肝疾患 618 12.3
平成22年	悪性新生物 14,769 293.6	心疾患 5,791 115.1	肺炎 5,076 100.9	脳血管疾患 4,316 85.8	不慮の事故 1,724 34.3	自殺 1,173 23.3	老衰 1,116 22.2	腎不全 932 18.5	大動脈瘤及び解離 726 14.4	慢性閉塞性肺疾患 721 14.3

注：昭和55年～平成2年まではICD-9、平成7年からはICD-10による分類である。

総死亡数に占める各主要死因の構成割合を図3.4に示す。平成22年に本県で最も多かった死因は悪性新生物の31.4%だった。次いで心疾患の12.3%、肺炎の10.8%の順だった。

性・主要死因別にみた死亡数、死亡率及び死亡率性比を第3.4表に示す。平成22年の本県の全死因死亡数及び死亡率をみると、男が24,231人（人口10万対1020.4）、女が22,765人（857.0）だった。男で最も多かった死因は悪性新生物の8,574人（361.1）だった。次いで肺炎の2,613人（110.0）、心疾患の2,411人（101.5）、脳血管疾患の1,986人（83.6）、不慮の事故の995人（41.9）の順だった。また、女で最も多かった死因は悪性新生物の6,195人（233.2）だった。次いで心疾患の3,380人（127.2）、肺炎の2,463人（92.7）、脳血管疾患の2,330人（87.7）、老衰の902人（34.0）の順だった。死亡率性比でみると慢性閉塞性肺疾患や自殺は死亡率性比が3以上、肝疾患は死亡率性比が2以上であり、男に多い死因といえる。逆に老衰や高血圧性疾患は死亡率性比が0.27、0.64で女に多い。

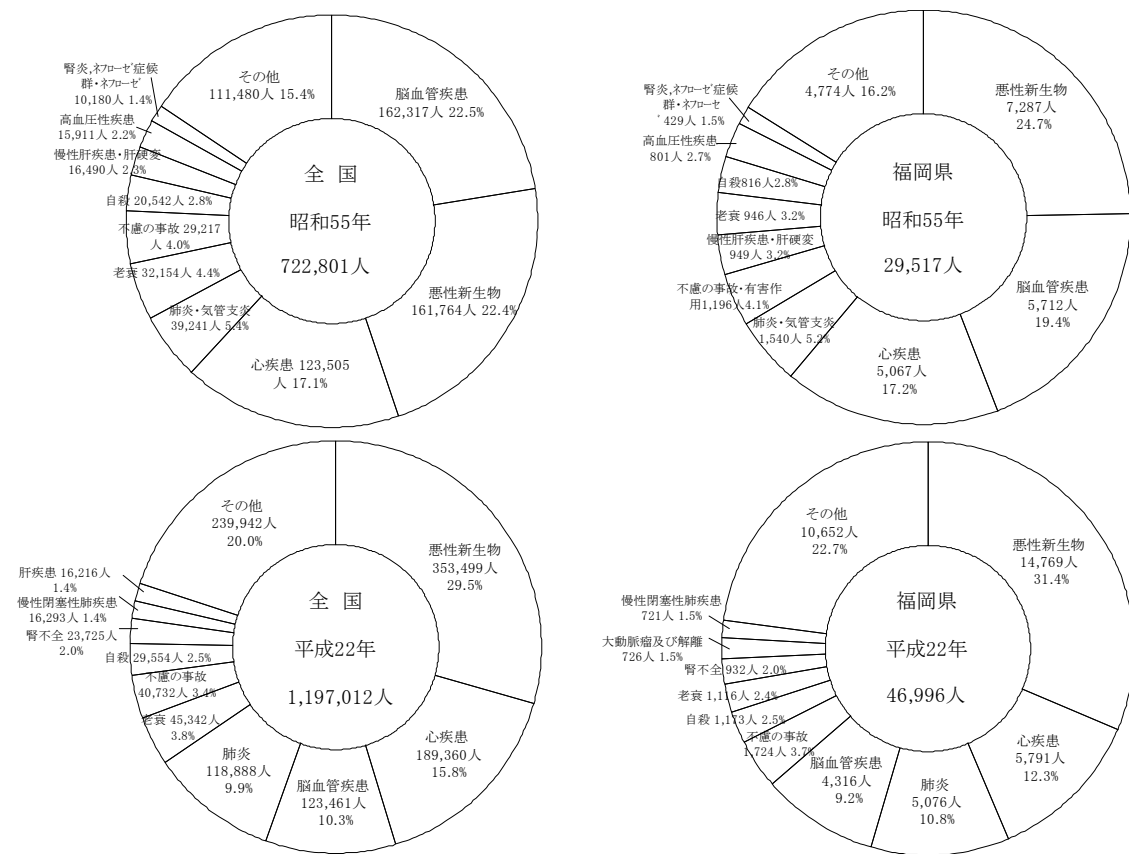


図 3.4 死亡数に占める各主要死因の構成割合

第 3.4 表 性・主要死因別にみた死亡数・死亡率(人口 10 万対)・死亡率性比(平成 22 年・福岡県)

死 因	男		女		死亡率性比
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	
総 数	24,231	1020.4	22,765	857.0	1.19
悪 性 新 生 物	8,574	361.1	6,195	233.2	1.55
肺 炎	2,613	110.0	2,463	92.7	1.19
心 疾 患	2,411	101.5	3,380	127.2	0.80
脳 血 管 疾 患	1,986	83.6	2,330	87.7	0.95
不 慮 の 事 故	995	41.9	729	27.4	1.53
自 殺	858	36.1	315	11.9	3.05
慢 性 閉 塞 性 肺 疾 患	545	23.0	176	6.6	3.46
肝 疾 患	420	17.7	207	7.8	2.27
腎 不 全	387	16.3	545	20.5	0.79
大 動 脈 瘤 及 び 解 離	366	15.4	360	13.6	1.14
糖 尿 病	337	14.2	244	9.2	1.54
敗 血 症	222	9.3	275	10.4	0.90
老 衰	214	9.0	902	34.0	0.27
高 血 圧 性 疾 患	146	6.1	256	9.6	0.64

注：1) 人口は「平成22年人口動態統計上巻 年次・都道府県・性別人口」(厚労省)を使用(男：2,374,674人、女：2,656,287人)。
 2) 死亡率性比=男の死亡率/女の死亡率。男の死亡率が女の死亡率の何倍にあたるかを表す。

(3) 三大死因

1) 悪性新生物

悪性新生物の主な部位別死亡数を第3.5表に示す。本県の悪性新生物の死亡数は昭和55年以降平成20年まで常に増加していたが、平成22年は前年と比較して457人増加し、14,769人だった。また、死亡率（人口10万対）は293.6で前年の285.4を上回った。

3.5表 主要部位別にみた悪性新生物の死亡数の推移（福岡県）

年次	総数	食道	胃	結腸	直腸・S状移行部	肝及び肝内胆管	胆のう及び他の胆道	膵	気管、気管支及び肺	乳房	子宮	卵巣	前立腺	白血病	その他
昭和55年	7,287	232	2,097	350	267	893	236	343	1,004	182	287	84	78	202	1,032
〃 60年	8,350	205	1,878	511	316	1,300	433	420	1,308	213	240	102	88	192	1,144
平成2年	9,474	258	1,751	628	379	1,637	486	538	1,610	245	201	122	124	245	1,250
〃 7年	11,414	287	1,901	799	425	2,008	572	664	2,020	310	226	146	203	292	1,561
〃 12年	12,503	386	1,916	980	413	2,020	590	708	2,275	389	238	140	304	335	1,809
〃 13年	12,531	378	1,832	969	459	1,991	638	751	2,334	376	250	116	313	334	1,790
〃 14年	12,953	423	1,820	996	498	2,074	656	807	2,329	401	243	129	329	346	1,902
〃 15年	13,343	407	1,941	1,094	515	2,158	634	806	2,369	429	218	156	356	333	1,927
〃 16年	13,415	420	1,896	1,071	515	2,017	644	883	2,519	418	231	184	329	331	1,957
〃 17年	13,700	402	1,858	1,140	510	2,079	632	813	2,637	495	206	167	326	359	2,076
〃 18年	13,903	417	1,959	1,148	489	2,024	704	877	2,551	492	261	188	372	349	2,072
〃 19年	14,130	411	1,905	1,108	501	2,017	660	1,020	2,742	489	238	173	363	402	2,101
〃 20年	14,328	458	1,850	1,149	534	2,009	698	1,012	2,786	520	243	171	393	368	2,137
〃 21年	14,312	408	1,906	1,141	505	1,872	777	985	2,743	485	225	184	420	406	2,255
〃 22年	14,769	461	1,839	1,268	548	1,852	736	1,075	2,888	546	259	180	424	352	2,341

注：1) 平成7年からはICD-10の分類区分に基づき集計した。それ以前は、厚生省が作成したICD-9とICD-10の新旧比較表をもとに、ICD-10の分類に変換して集計した。

2) 乳房は女のみの数値であり、男の乳房の数値はその他に計上している。

本県の悪性新生物の性・部位別死亡割合を図3.5に示す。平成22年の本県の悪性新生物による死亡数は、男が8,574人、女が6,195人だった。また、構成割合をみると、男女ともに気管・気管支及び肺、肝及び肝内胆管、胃、結腸が多く、これら4部位による死亡数が全体に占める割合は、男が58.9%、女が45.2%だった。

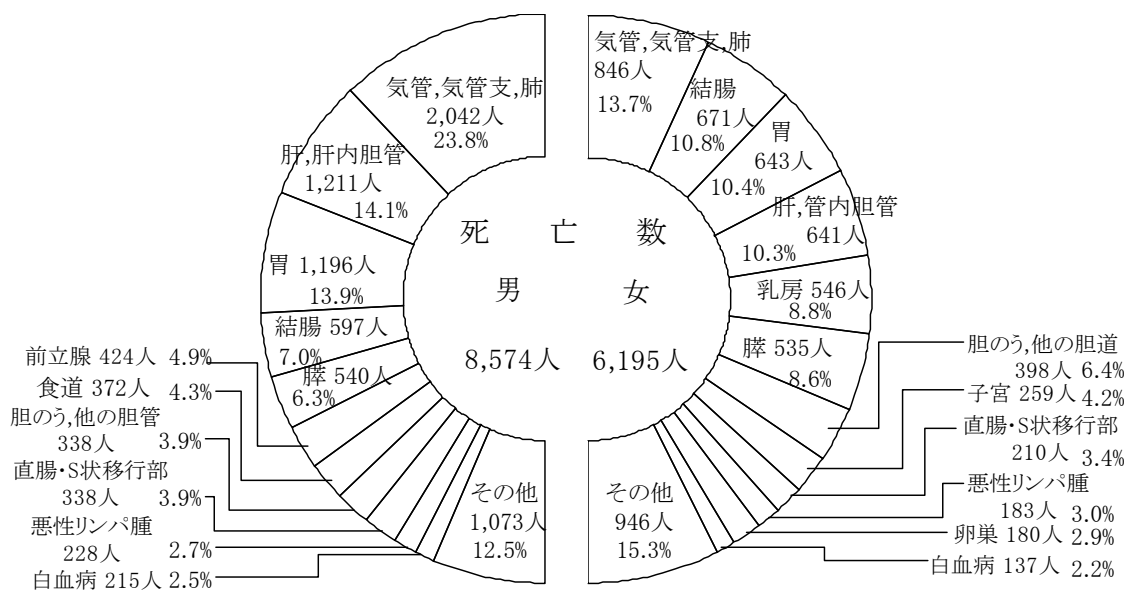


図3.5 性・部位別にみた悪性新生物の死亡数・構成割合（平成22年・福岡県）

本県の昭和55年から平成22年までの悪性新生物の主な部位別死亡率（人口10万対）を図3.6に示す。また、平成7年からの年齢調整死亡率を図3.7に示す。

図3.6の気管、気管支及び肺、結腸、膵、乳房、前立腺の死亡率は増加傾向にあるが、図3.7の年齢構成を補正した年齢調整死亡率でみると、いずれも横ばい状態となっている。

なお、胃や肝及び肝内胆管は年齢調整死亡率でも減少傾向にある。

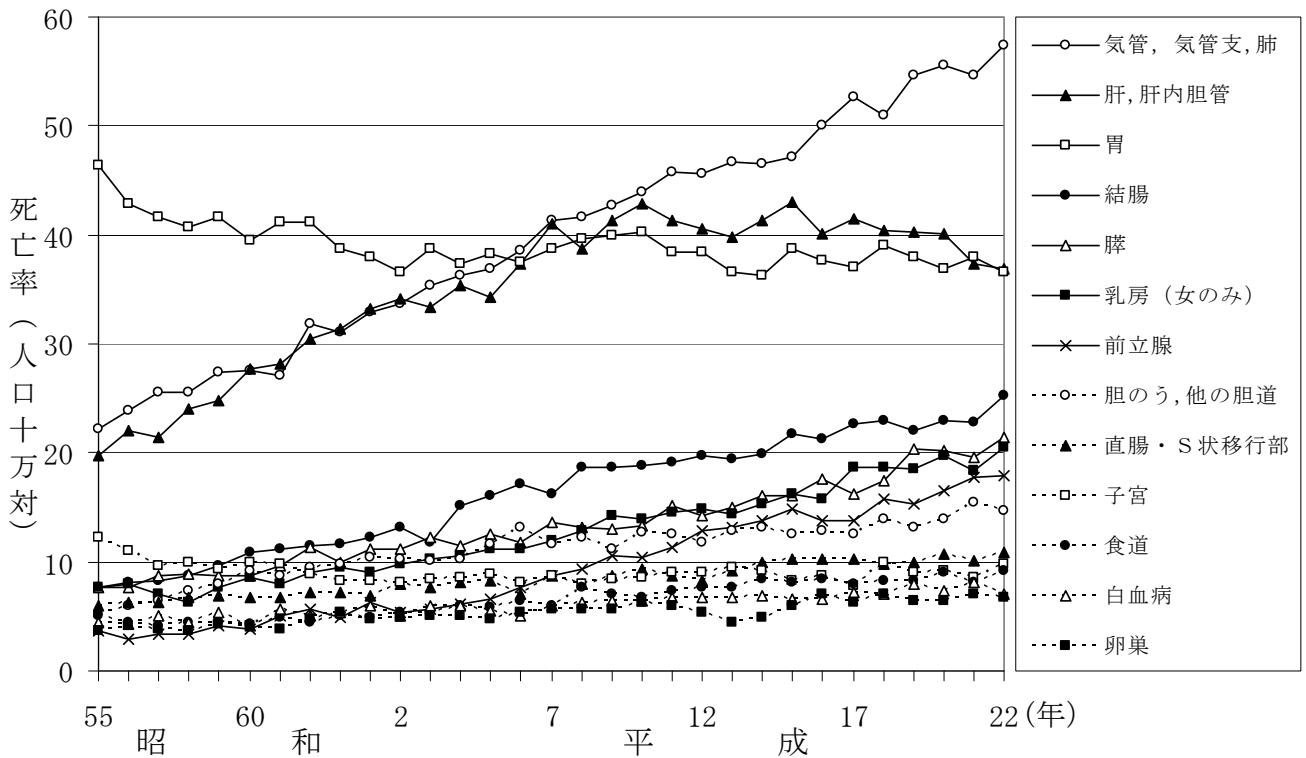


図3.6 主要部位別にみた悪性新生物の死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

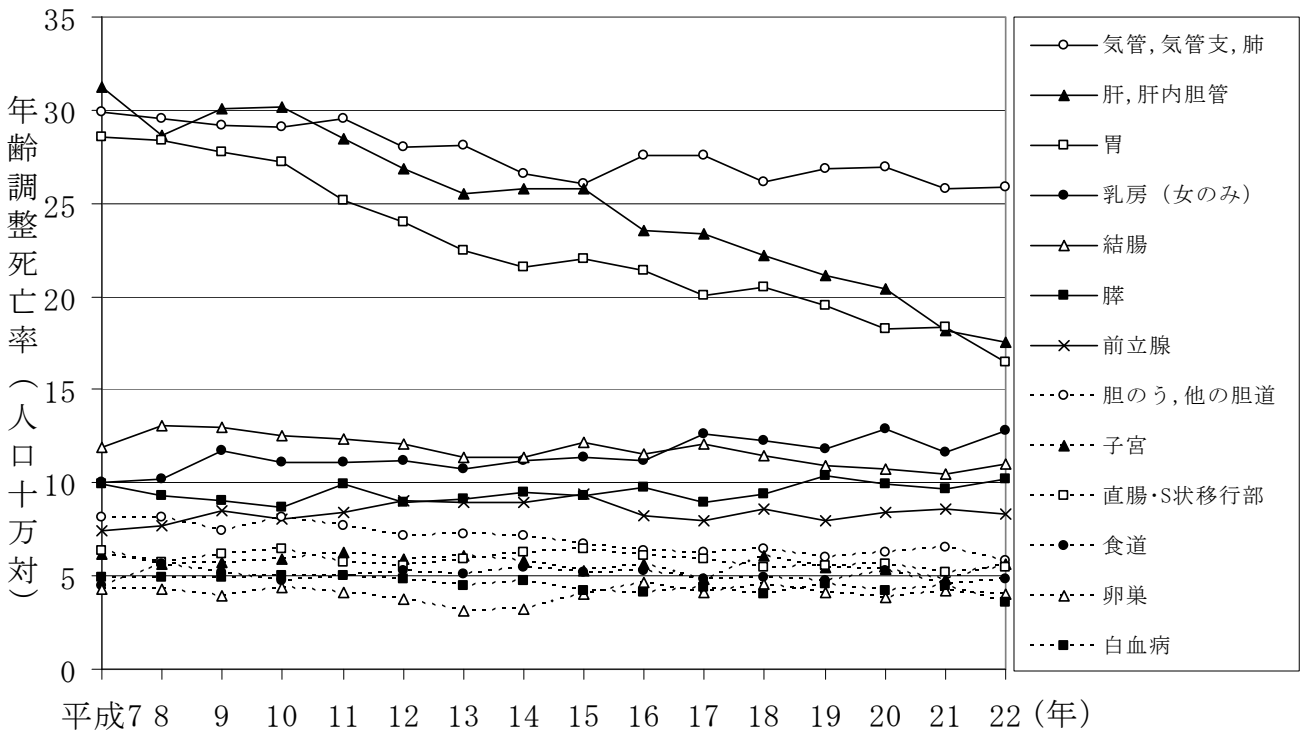


図3.7 主要部位別にみた悪性新生物の年齢調整死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

2) 心疾患

心疾患の死因別割合を図 3.8 に示す。平成 22 年の本県の心疾患による死亡数は 5,791 人で前年の 5,584 人に比べ 207 人増加した。また、心疾患死亡数の構成割合をみると、最も多かったのは心不全の 1,993 人 (34.4%) だった。次いで急性心筋梗塞の 1,427 人 (24.6%)、その他の虚血性心疾患の 901 人 (15.6%) の順だった。

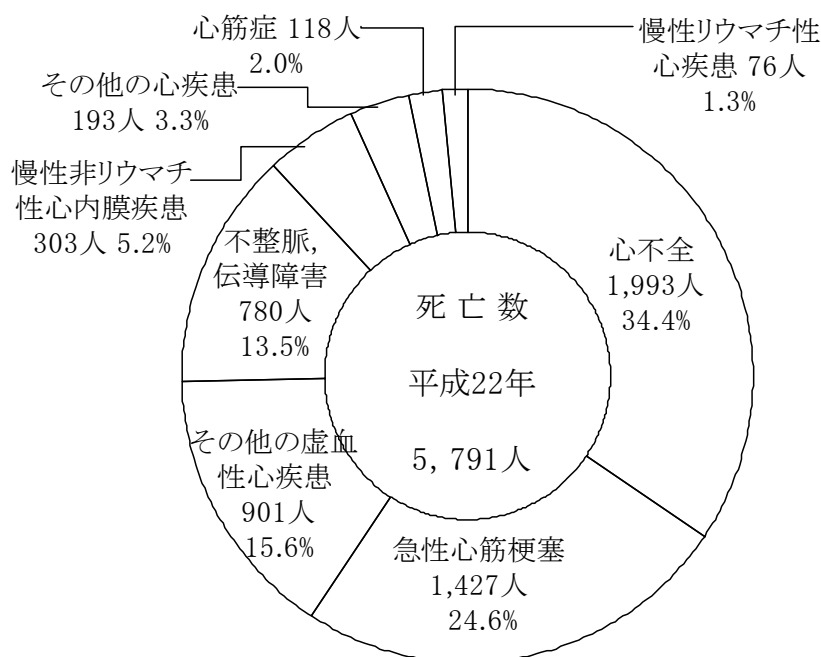


図 3.8 心疾患の死因別にみた割合 (平成 22 年・福岡県)

3) 脳血管疾患

脳血管疾患の死因別割合を図 3.9 に示す。平成 22 年の本県の脳血管疾患による死亡数は 4,316 人で前年の 4,404 人に比べ 88 人減少した。また、脳血管疾患の構成割合をみると、最も多かったのは脳梗塞 2,475 人 (57.3%) だった。次いで脳内出血の 1,148 人 (26.6%)、くも膜下出血の 535 人 (12.4%) の順だった。

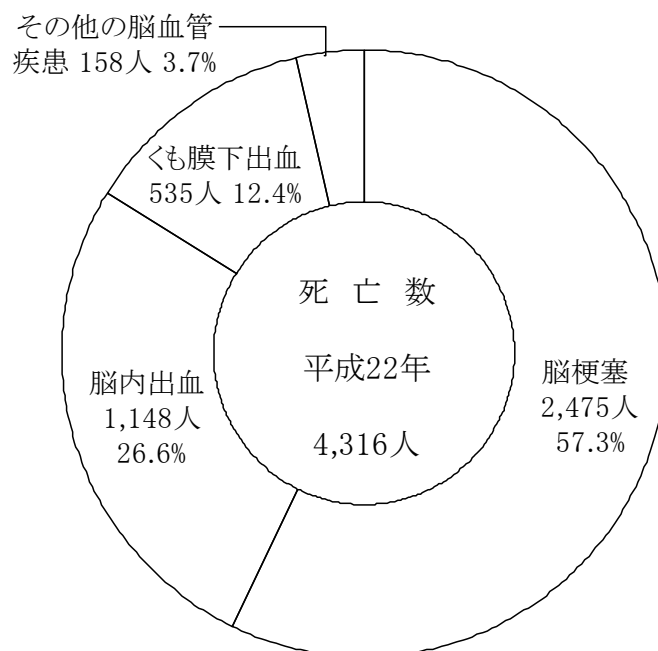


図 3.9 脳血管疾患の死因別にみた割合 (平成 22 年・福岡県)

(4) 乳児死亡

乳児死亡を死亡統計でとりあげるのは、乳児の生存は母体の健康状態・養育条件等の影響を強く受けるため、乳児死亡率はその地域の衛生状態の良否、ひいては経済や教育を含めた社会状態を反映する指標の一つと考えられるからである。

乳児死亡数（率）の推移を第3.6表に示す。平成22年の本県の乳児死亡数は105人、乳児死亡率は2.2だった。

第3.6表 乳児死亡数・乳児死亡率（出生千対）の推移

年次	乳児死亡数 (福岡県)	乳児死亡率		年次	乳児死亡数 (福岡県)	乳児死亡率	
		福岡県	全国			福岡県	全国
昭和22年	8,748	80.8	76.7	〃 12年	162	3.4	3.2
〃 25年	5,715	52.4	60.1	〃 13年	134	2.9	3.1
〃 30年	2,539	33.2	39.8	〃 14年	162	3.5	3.0
〃 35年	1,828	27.2	30.7	〃 15年	156	3.5	3.0
〃 40年	1,154	16.8	18.5	〃 16年	134	3.0	2.8
〃 45年	869	12.5	13.1	〃 17年	109	2.5	2.8
〃 50年	568	8.0	10.0	〃 18年	90	2.0	2.6
〃 55年	442	6.9	7.5	〃 19年	110	2.4	2.6
〃 60年	324	5.5	5.5	〃 20年	105	2.2	2.6
平成 2年	223	4.6	4.6	〃 21年	107	2.3	2.4
〃 7年	230	4.9	4.3	〃 22年	105	2.2	2.3

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

死因別にみた乳児死亡数と構成割合を図3.10に示す。本県で最も多かったのは先天奇形、変形、染色体異常の37人（35.2%）だった。次いで周産期の呼吸障害、心血管障害の15人（14.3%）、乳幼児突然死症候群の8人（7.6%）の順だった。

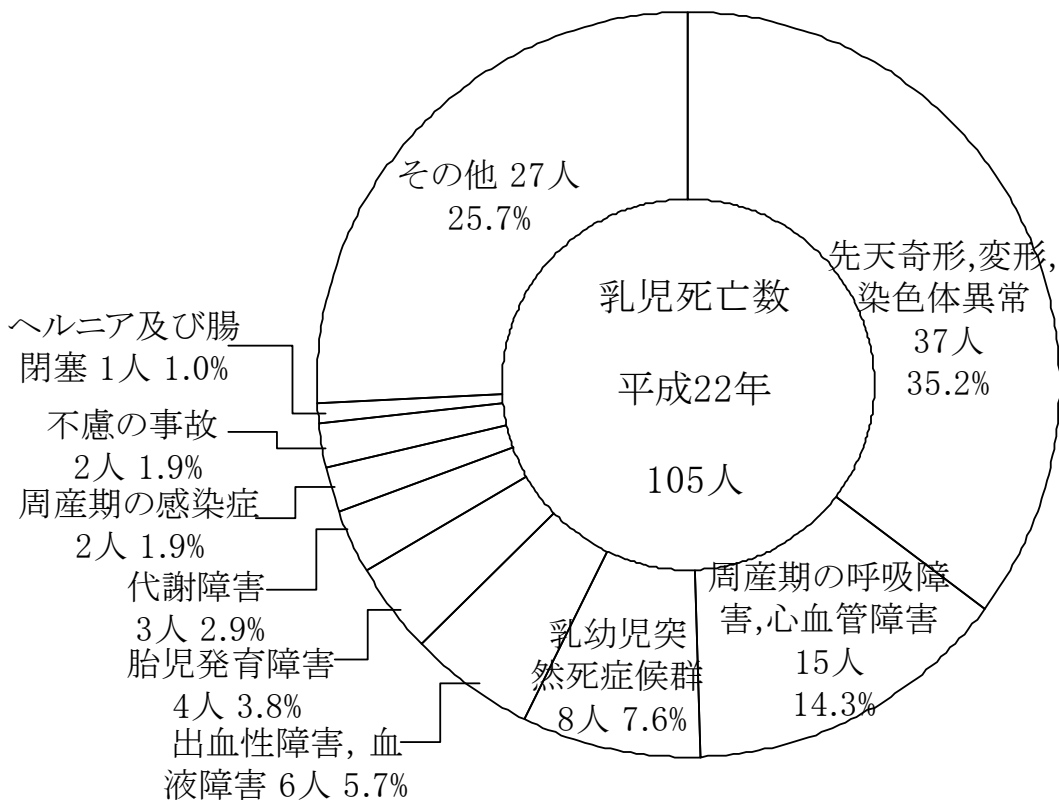


図3.10 乳児死亡の死因別割合（平成22年・福岡県）

平成 22 年の本県の保健所管内別にみた乳児死亡率を図 3.11 に示す。率が低かったのは宗像・遠賀の 0.43、筑紫の 0.89、北筑後の 1.34、福岡市博多区の 1.40、福岡市早良区の 1.45 の順だった。

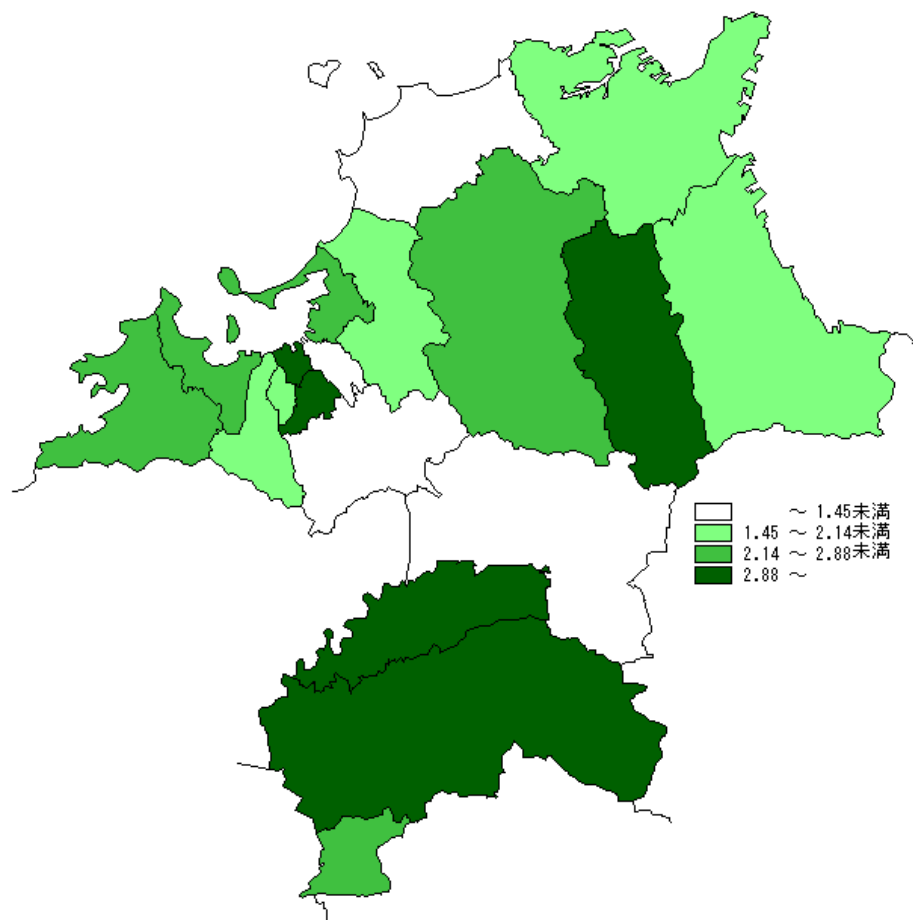


図 3.11 保健所管内別にみた乳児死亡率（出生千対）（平成 22 年・福岡県）

(5) 周産期死亡

周産期死亡を死亡統計でとりあげるのは、妊娠 22 週以後の死産と早期新生児死亡がともに母体の健康状態に強く影響されるためであり、1950 年以降 WHO によって提唱されたものである。

周産期死亡数及び周産期死亡率の推移を第 3.7 表に示す。平成 22 年の本県の周産期死亡数は 200 人、周産期死亡率（出産千対）は 4.3 だった。

第 3.7 表 周産期死亡数・周産期死亡率の推移

年次	周産期死亡数 (福岡県)	周産期死亡率		年次	周産期死亡数 (福岡県)	周産期死亡率	
		福岡県	全国			福岡県	全国
昭和35年	3,161	47.0	41.4	// 14年	241	5.2	5.5
// 40年	2,315	33.6	30.1	// 15年	240	5.3	5.3
// 45年	1,654	23.8	21.7	// 16年	212	4.7	5.0
// 50年	1,085	15.3	16.0	// 17年	209	4.8	4.8
// 55年	687	10.7	11.7	// 18年	177	3.9	4.7
// 60年	443	7.5	8.0	// 19年	202	4.3	4.5
平成 2年	292	6.1	5.7	// 20年	201	4.3	4.3
// 7年	295	6.3	7.0	// 21年	186	4.0	4.2
// 12年	251	5.3	5.8	// 22年	200	4.3	4.2
// 13年	247	5.2	5.5				

注：1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

2) 平成7年からの周産期死亡数は妊娠満22週以後の死産と早期新生児死亡の合計である。それ以前は妊娠満28週以後の死産と早期新生児死亡の合計である。

3) 平成7年からの周産期死亡率は出産千対（出生数+妊娠満22週以後の死産）である。それ以前は出生千対である。

平成 22 年の本県の保健所管内別の周産期死亡率を図 3.12 に示す。周産期死亡率が低かったのは宗像・遠賀の 2.14、嘉穂・鞍手の 2.36、福岡市城南区の 2.55、筑紫の 3.10、福岡市東区の 3.26 の順だった。

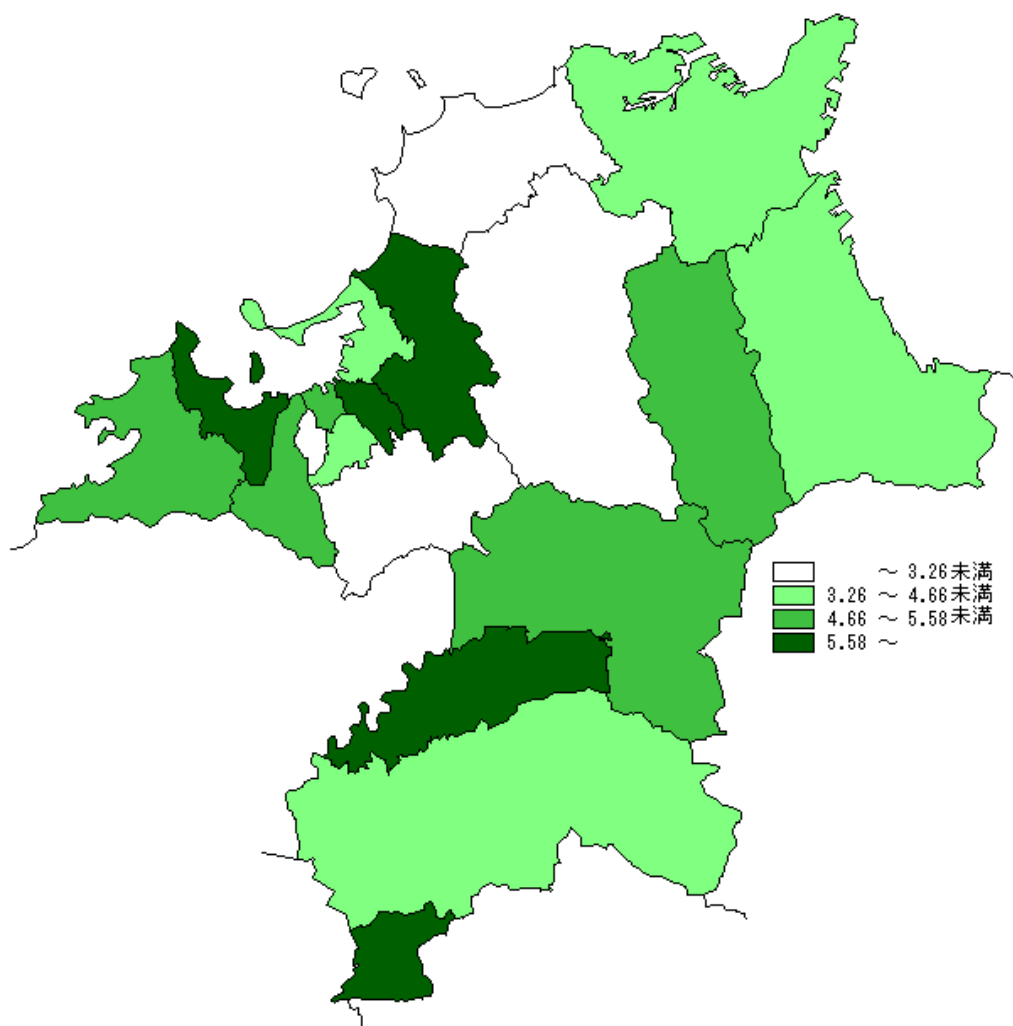


図 3.12 保健所管内別にみた周産期死亡率（出産千対）（平成 22 年・福岡県）

(6) 高齢者（65 歳以上）死亡

65 歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率の推移を第 3.8 表及び図 3.13 に示す。死亡数は年々増加しているものの、それ以上に高齢者の人口が多いために死亡率としては減少傾向にある。平成 22 年推計人口（県調査統計課）によると、本県の 65 歳以上の日本人人口は 1,114,380 人で、全人口の 22.3%を占めている。平成 22 年の死亡数は 39,923 人、死亡率（人口千対）は 35.8 だった。

第 3.8 表 65 歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率（人口千対）の推移

年次	福岡県		全国		年次	福岡県		全国	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率		死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和45年	16,738	57.1	438,362	60.0	// 15年	32,944	34.8	818,922	33.8
// 50年	17,897	50.4	459,385	52.0	// 16年	33,262	34.4	834,233	33.7
// 55年	20,097	47.1	503,067	47.4	// 17年	34,807	35.0	888,240	34.6
// 60年	21,463	43.0	535,260	43.3	// 18年	35,681	34.8	895,829	33.8
平成 2年	24,526	41.0	604,674	40.7	// 19年	36,691	34.8	923,666	33.8
// 7年	28,398	39.1	704,092	38.7	// 20年	37,731	35.0	960,917	34.2
// 12年	30,465	35.1	757,558	34.5	// 21年	37,832	34.2	964,863	33.4
// 13年	30,622	34.2	771,415	33.9	// 22年	39,923	35.8	1,019,825	34.7
// 14年	31,517	34.1	786,960	33.4					

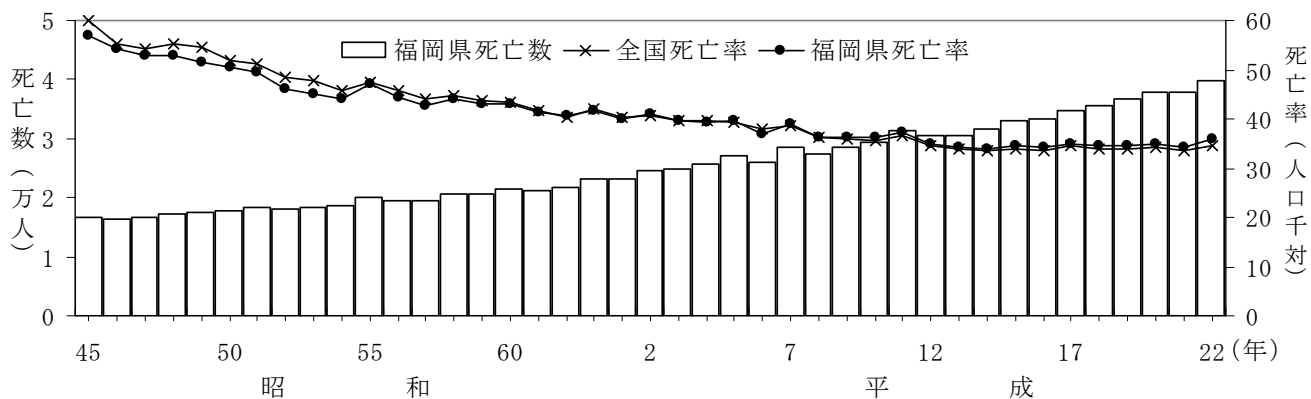


図 3.13 65 歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率の推移

65 歳以上の高齢者の性別・死因別にみた死亡数及び死亡割合を図 3.14 に示す。平成 22 年の本県の 65 歳以上の高齢者における死亡数は、男が 19,476 人、女が 20,447 人だった。性別・死因別の死亡数をみると、男で最も多かったのは悪性新生物の 6,857 人（35.2%）だった。次いで肺炎の 2,487 人（12.8%）、心疾患の 2,031 人（10.4%）の順だった。また、女で最も多かったのは悪性新生物の 5,014 人（24.5%）だった。次いで心疾患の 3,261 人（15.9%）、肺炎の 2,419 人（11.8%）の順だった。

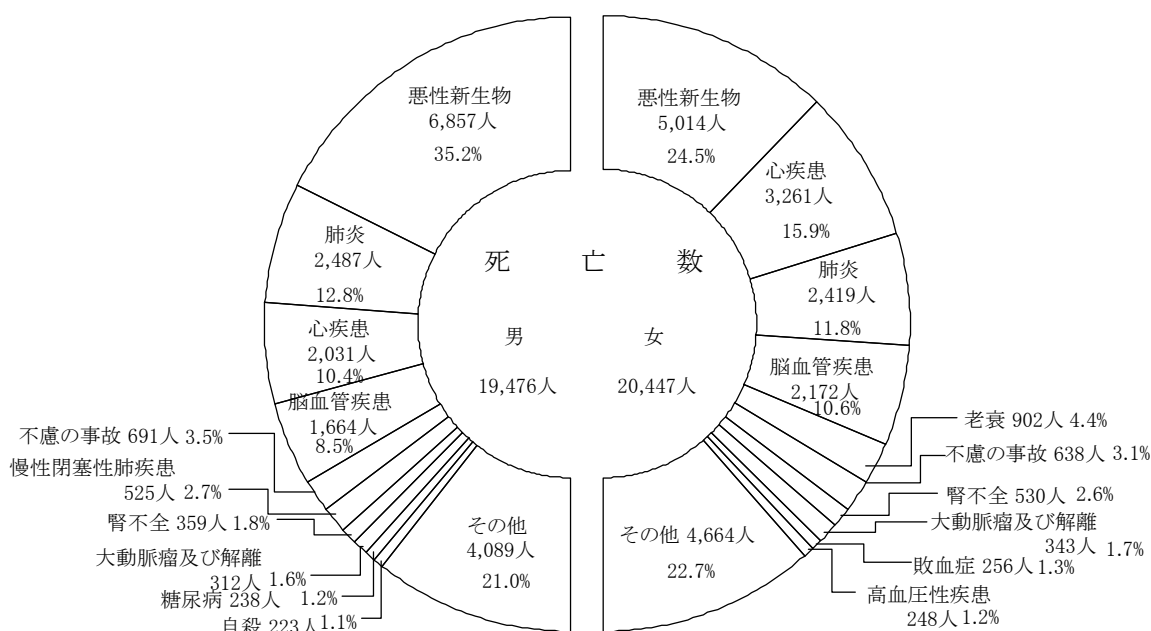


図 3.14 65 歳以上の高齢者における性・死因別にみた死亡数及び死亡割合（平成 22 年・福岡県）

(7) 死亡の場所

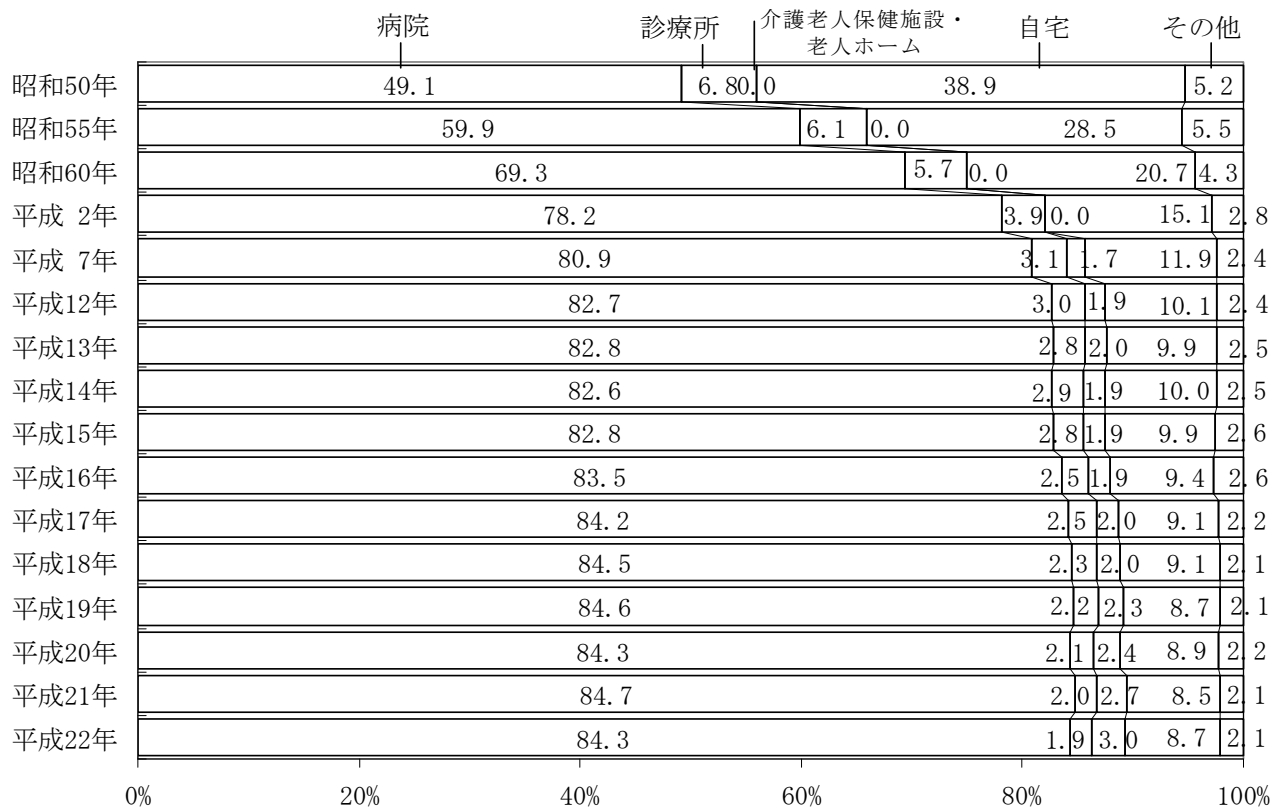
死亡場所別にみた死亡数・百分率の推移を第 3.9 表及び図 3.15 に示す。平成 22 年の本県の状況をみると、最も多かったのは病院の 39,629 人（84.3%）だった。いわゆる在宅（介護老人保健施設、老人ホーム及び自宅）での死亡数は、5,499 人（11.7%）であり、前年の 5,011 人（11.2%）に比べ、数及び率ともに増加した。近年、福岡県の在宅看取り率は 11%台で推移しており、全国と比べると常に下回って推移している。

第 3.9 表 死亡場所別にみた死亡数・施設及び自宅での死亡割合の推移（福岡県）

年次	総数	施設内						施設外			施設及び自宅での死亡割合	
		総数	病院	診療所	介護老人保健施設	助産所	老人ホーム	総数	自宅	その他	福岡県	全国
昭和50年	27,576	15,421	13,551	1,866	・	4	・	12,155	10,713	1,442	38.8	47.7
昭和55年	29,517	19,475	17,677	1,793	・	5	・	10,042	8,405	1,637	28.5	38.0
昭和60年	30,888	23,158	21,407	1,750	・	1	・	7,730	6,389	1,341	20.7	28.3
平成2年	33,595	27,583	26,272	1,302	8	1	・	6,012	5,058	954	15.1	21.7
平成7年	37,158	31,856	30,053	1,159	54	0	590	5,302	4,421	881	13.6	20.1
平成12年	38,505	33,688	31,831	1,142	193	0	522	4,817	3,888	929	12.0	16.2
平成13年	38,640	33,849	32,007	1,076	226	0	540	4,791	3,837	954	11.9	16.1
平成14年	39,414	34,476	32,575	1,159	229	0	513	4,938	3,959	979	11.9	15.8
平成15年	40,770	35,681	33,760	1,136	232	0	553	5,089	4,040	1,049	11.8	15.5
平成16年	41,144	36,192	34,359	1,044	210	0	579	4,952	3,865	1,087	11.3	15.1
平成17年	42,675	37,845	35,944	1,063	245	1	592	4,830	3,874	956	11.0	15.1
平成18年	43,270	38,427	36,555	1,000	260	0	612	4,843	3,949	894	11.1	15.3
平成19年	43,919	39,182	37,173	981	285	0	743	4,737	3,815	922	11.0	15.7
平成20年	45,134	40,106	38,040	961	307	0	798	5,028	4,037	991	11.4	16.5
平成21年	44,879	40,132	38,012	903	348	0	869	4,747	3,794	953	11.2	16.8
平成22年	46,996	41,947	39,629	886	451	0	981	5,049	4,067	982	11.7	17.4

注：1)平成6年までは老人ホームでの死亡は、自宅又はその他に含まれる。

2)施設及び自宅での死亡割合とは、全死亡における介護老人保健施設、老人ホーム及び自宅における死亡の百分率(%)を示す。



注：助産所における死亡は極めて少数なので集計から除外し作図した。

図 3.15 死亡場所別にみた死亡割合の推移（福岡県）

4 死 産

死産数及び死産率の推移を第4.1表に示す。平成22年の本県の死産数は1,366胎、死産率〔出産（出生＋死産）千対〕は28.3だった。また、自然死産数（自然-人工の不詳を含む）は582胎、自然死産率は12.1、人工死産数は784胎、人工死産率は16.3だった。

第4.1表 死産数・死産率（出産千対）の推移

年次	総 数			自 然			人 工		
	福 岡 県		全 国	福 岡 県		全 国	福 岡 県		全 国
	死産数	死産率	死産率	死産数	死産率	死産率	死産数	死産率	死産率
昭和25年	10,752	89.7	84.9	5,027	41.9	41.7	5,725	47.7	43.2
30年	9,947	115.2	95.8	4,269	49.4	44.5	5,678	65.7	51.3
35年	10,427	134.1	100.4	4,966	63.9	52.3	5,461	70.2	48.1
40年	7,949	103.5	81.4	4,285	55.8	47.6	3,664	47.7	33.8
45年	6,199	81.7	65.3	3,602	47.5	40.6	2,597	34.2	24.7
50年	4,793	63.2	50.8	3,009	39.7	33.8	1,784	23.5	17.1
55年	3,753	55.1	46.8	2,044	30.0	28.8	1,709	25.1	18.0
60年	3,588	57.5	46.0	1,543	24.7	22.1	2,045	32.8	23.9
平成 2年	2,689	52.9	42.3	1,051	20.7	18.3	1,638	32.2	23.9
7年	1,935	39.7	32.1	683	14.0	14.9	1,252	25.7	17.2
12年	1,858	37.8	31.2	593	12.1	13.2	1,265	25.7	18.1
13年	1,856	38.0	31.0	619	12.7	13.0	1,237	25.3	18.0
14年	1,795	37.2	31.1	579	12.0	12.7	1,216	25.2	18.3
15年	1,716	36.7	30.5	556	11.9	12.6	1,160	24.8	17.8
16年	1,792	38.2	30.0	585	12.5	12.5	1,207	25.7	17.5
17年	1,605	35.6	29.1	556	12.3	12.3	1,049	23.3	16.7
18年	1,495	31.9	27.5	505	10.8	11.9	990	21.2	15.6
19年	1,451	30.3	26.2	534	11.2	11.7	917	19.2	14.5
20年	1,424	29.6	25.2	530	11.0	11.3	894	18.6	13.9
21年	1,342	28.3	24.6	503	10.6	11.1	839	17.7	13.5
22年	1,366	28.3	24.2	582	12.1	11.2	784	16.3	13.0

注：1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。
 2) 自然死産には自然-人工の不詳を含む。

平成22年の本県の保健所管内別にみた死産率を図4.1に示す。最も死産率が低かったのは宗像・遠賀の17.72だった。次いで福岡市城南区の18.36、北筑後の19.00、筑紫の24.06、福岡市西区の25.06の順だった。

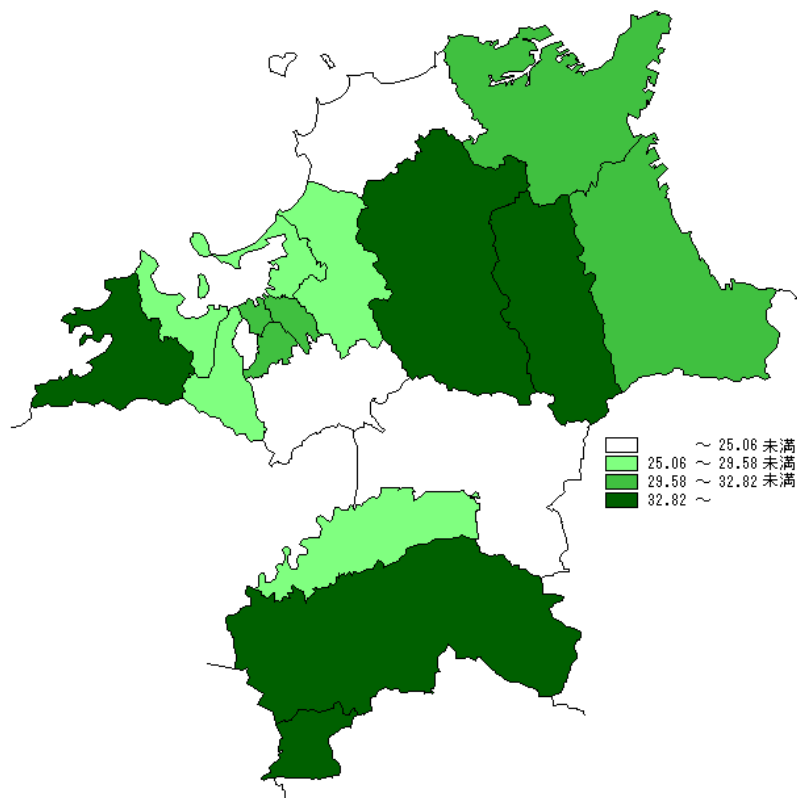


図4.1 保健所管内別にみた死産率（出産千対）（平成22年・福岡県）

5 婚 姻

婚姻件数及び婚姻率の推移を第 5.1 表に示す。平成 22 年の本県の婚姻件数は 29,247 件、婚姻率（人口千対）は 5.8 だった。

第 5.1 表 婚姻件数・婚姻率（人口千対）の推移

年 次	福 岡 県		全 国		年 次	福 岡 県		全 国	
	婚姻件数	婚姻率	婚姻件数	婚姻率		婚姻件数	婚姻率	婚姻件数	婚姻率
昭和22年	39,288	12.4	934,170	12.0	// 12年	30,640	6.1	798,138	6.4
// 25年	32,614	9.2	715,081	8.6	// 13年	31,143	6.2	799,999	6.4
// 30年	31,424	8.1	714,861	8.0	// 14年	30,358	6.1	757,331	6.0
// 35年	37,184	9.3	866,115	9.3	// 15年	29,284	5.8	740,191	5.9
// 40年	37,816	9.5	954,852	9.7	// 16年	28,490	5.7	720,417	5.7
// 45年	38,206	9.5	1,029,405	10.0	// 17年	28,715	5.7	714,265	5.7
// 50年	36,937	8.7	941,628	8.5	// 18年	30,006	6.0	730,971	5.8
// 55年	32,007	7.0	774,702	6.7	// 19年	29,486	5.9	719,822	5.7
// 60年	29,208	6.1	735,850	6.1	// 20年	30,017	6.0	726,106	5.8
平成 2年	27,377	5.7	722,138	5.9	// 21年	29,419	5.9	707,734	5.6
// 7年	30,355	6.2	791,888	6.4	// 22年	29,247	5.8	700,214	5.5

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成 22 年の本県の市区町村別にみた婚姻率を図 5.1 に示す。最も婚姻率が高かったのは福岡市博多区の 9.70 だった。次いで福岡市中央区の 9.43、粕屋町の 9.07、北九州市小倉北区の 7.27、福岡市東区の 6.95 の順だった。

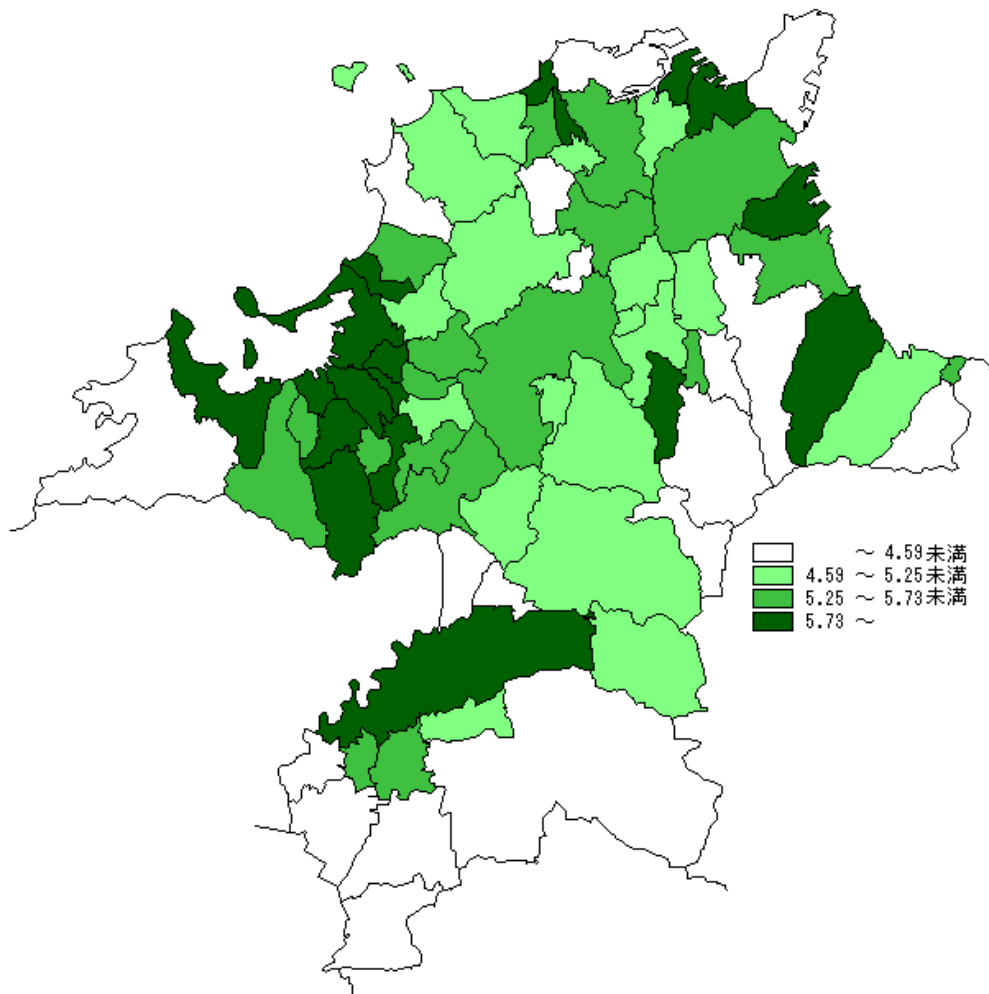


図 5.1 市区町村別にみた婚姻率（人口千対）（平成 22 年・福岡県）

6 離 婚

離婚件数及び離婚率の推移を第 6.1 表に示す。平成 22 年の本県の離婚件数は 10,952 件、離婚率は 2.18 だった。

第 6.1 表 離婚件数・離婚率（人口千対）の推移

年 次	福 岡 県		全 国		年 次	福 岡 県		全 国	
	離婚件数	離婚率	離婚件数	離婚率		離婚件数	離婚率	離婚件数	離婚率
昭和22年	3,918	1.23	79,551	1.02	〃 12年	12,053	2.42	264,246	2.10
〃 25年	4,402	1.25	83,689	1.01	〃 13年	13,230	2.65	285,911	2.27
〃 30年	4,336	1.12	75,267	0.84	〃 14年	13,241	2.64	289,836	2.30
〃 35年	3,971	0.99	69,410	0.74	〃 15年	12,779	2.55	283,854	2.25
〃 40年	4,113	1.04	77,195	0.79	〃 16年	11,870	2.36	270,804	2.15
〃 45年	4,879	1.22	95,937	0.93	〃 17年	11,567	2.31	261,917	2.08
〃 50年	5,655	1.33	119,135	1.07	〃 18年	11,291	2.25	257,475	2.04
〃 55年	7,156	1.57	141,689	1.22	〃 19年	11,115	2.22	254,832	2.02
〃 60年	8,918	1.88	166,640	1.39	〃 20年	11,037	2.20	251,136	1.99
平成 2年	7,699	1.61	157,608	1.28	〃 21年	11,121	2.22	253,353	2.01
〃 7年	9,064	1.85	199,016	1.60	〃 22年	10,952	2.18	251,378	1.99

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成 22 年の本県の市区町村別にみた離婚率を図 6.1 に示す。最も低かったのはみやま市の 1.01、次いで吉富町の 1.04、東峰村の 1.24、柳川市の 1.42、久山町の 1.56 の順だった。

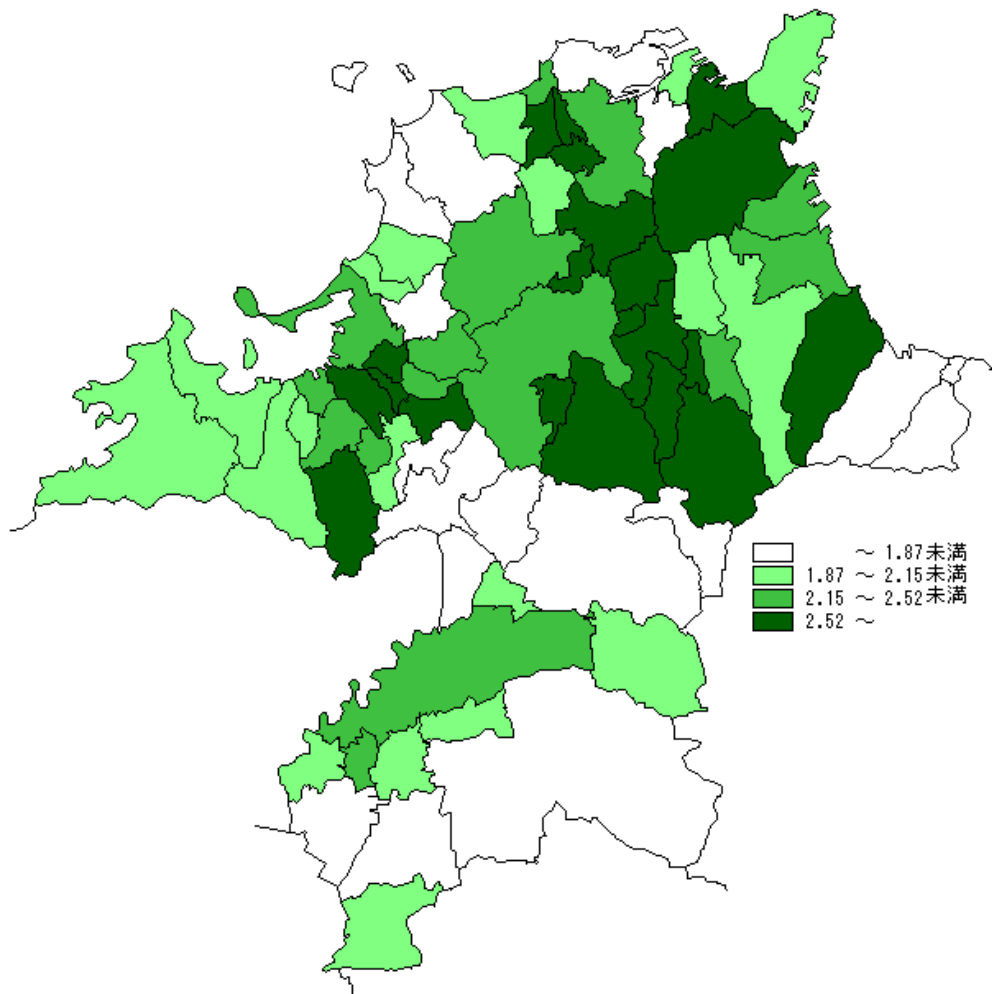


図 6.1 市区町村別にみた離婚率（人口千対）（平成 22 年・福岡県）